

# 18歳意識調査 「第70回 -政治・選挙-」

日本財団 2025年6月27日

# 目次

調査概要	3		
結果概要	4		
詳細	5		
政治への関心	6	親／保護者の投票への同行頻度	30
政治への関心（親の投票への同行頻度別）	7	次回参議院議員選挙の認知	31
政治について話す頻度（全体）	8	次回参議院議員選挙の認知（親の投票への同行頻度別）	32
政治について話す頻度（詳細）	9	次回参議院議員選挙における投票意思	33
政治への印象（全体）	11	次回参議院議員選挙における投票意思（親の投票への同行頻度別）	34
政治への印象（詳細）	12	自分の投票による政治への影響	35
政治家への印象（全体）	14	自分の投票による政治への影響（親の投票への同行頻度別）	36
政治家への印象（詳細）	15	選挙結果による自分の生活への影響	37
政治に関する国家等機関等への信頼度（全体）	17	選挙結果による自分の生活への影響（親の投票への同行頻度別）	38
政治に関する国家等機関等への信頼度（詳細）	18	選挙権・被選挙権に関する考え	39
政治に最も影響を与えている主体	20	若者の投票率向上施策	40
地方議員の年収の妥当性	21	政治行動に関する考え（全体）	42
国会議員の年収の妥当性	22	政治行動に関する考え（詳細）	43
選挙の公正性	23	政治行動に関する考え（詳細）（親の投票への同行頻度別）	45
今の日本の政治を変えるべきか	24	示唆	47
政治の学習経験（全体）	25		
政治の学習経験（詳細）	26		
体験してみたい政治に関する取り組み	28		
政治知識に関する自信	29		

# 第70回18歳意識調査「政治・選挙」調査概要

## 調査対象

全国の17歳～19歳男女

## 回答数

1,000 ※性年齢別の人口比率に合わせ、下記の通り割り付けを実施。

	17歳	18歳	19歳	計
男	169	169	175	513
女	160	161	166	487
計	329	330	341	1000

## 実施期間

2025年5月23日（金）～5月26日（月）

## 調査手法

インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

# 第70回18歳意識調査「政治・選挙」 結果概要

## 1 政治の関心・知識

- ① 約半数が政治に関心がある。男性は60%弱、女性は30%強と男女差が見られた。
- ② 約40%は今夏に参議院議員選挙があることを知っている。そして、約40%が今夏の参議院議員選挙の投票に行くと思うと回答。一方、約40%がそもそも参議院議員選挙自体を知らない。
- ③ 約30%は家族や友人を含む周囲のいずれの人に対しても「政治については全く話さない」

## 2 政治への信頼

- ① 60%以上が今の日本の政治・政治家にネガティブな印象をもっており、50%以上が内閣、国会、与野党のどれも信頼していない。
- ② 約50%が今の日本の地方議員の年収を高い、約60%が今の日本の国会議員の年収を高いと回答。
- ③ 30%以上が、今の日本の選挙が公正に実施されていないと思っている。
- ④ 約2/3は、今の日本の政治を「変えるべき」と回答。

## 3 政治の学習体験

- ① 50%弱は、自分が子どもの頃に、親／保護者の投票について行っていたことがある。
- ② 政治について最も話す頻度が高い相手は家族。
- ③ 約50%は政治に関する学習体験をしたくない。これまでの政治の学習経験では「親や家族との対話」、「テレビの政治解説番組の視聴」が多かった。
- ④ 今の日本の政治に最も影響を与えている人・組織は、「首相」、「国民」、「国会議員」、「マスコミ」が各10%程度で分散・拮抗している。

※本頁では質問や選択肢に関する表現を一部簡素化しています。詳細は各設問の結果詳細ページをご覧ください。

# 詳細

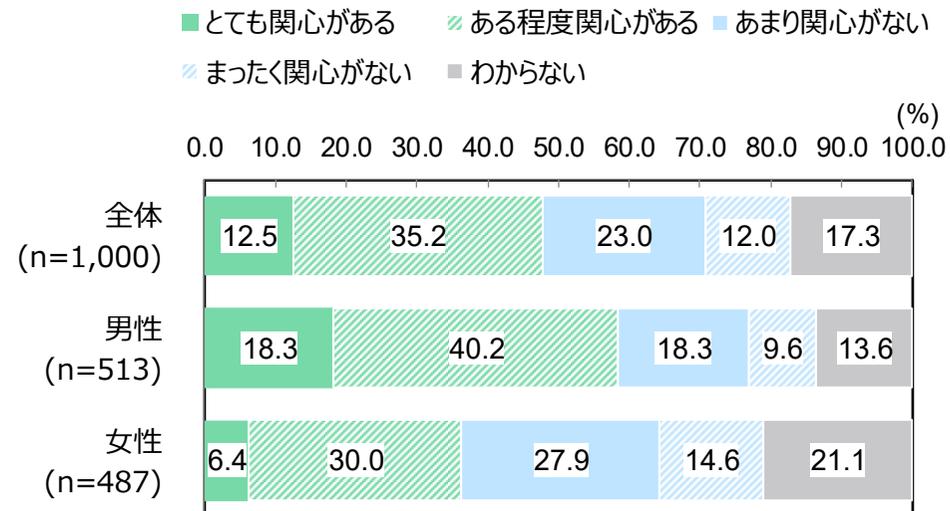
---

## 政治への関心

約半数が政治に関心がある（※）と回答した。  
 男性は60%弱、女性は30%強と、政治への関心には男女差が見られた。

※「とても関心がある」、「ある程度関心がある」の合計。

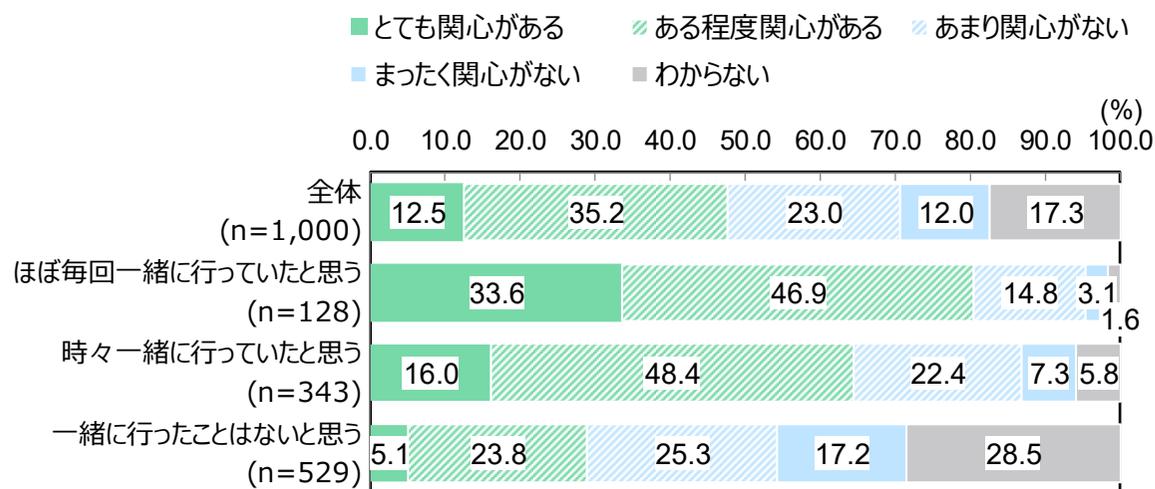
質問6：あなたは今の日本の政治について、どの程度関心がありますか。（単一回答）



## 政治への関心

親／保護者の投票に同行した頻度（自身の認識に基づく）別にみると、一緒に行っていた頻度が高いと認識している人ほど、今の日本の政治に対して「とても関心がある」と回答した人が多い。

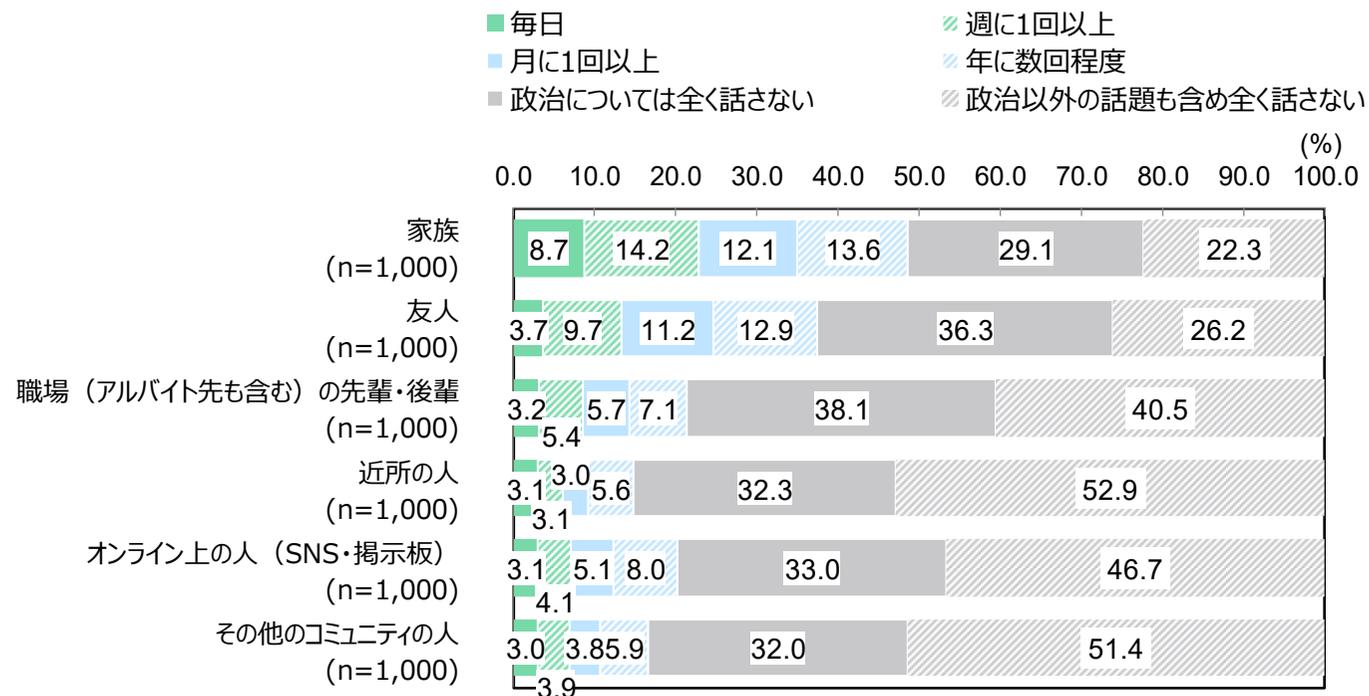
質問6：あなたは今の日本の政治について、どの程度関心がありますか。（単一回答）



# 政治について話す頻度（全体）

政治について最も話す頻度が高い相手は家族だった。  
 いずれの相手に対しても、「政治については全く話さない」が約30%存在。

質問7：あなたは、政治について、どれくらいの頻度で周りの人と話しますか。（単一回答）

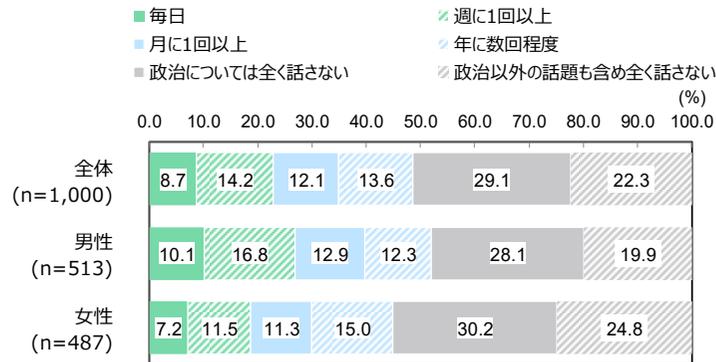


※ 全体のみ、「毎日」の降順で掲載。

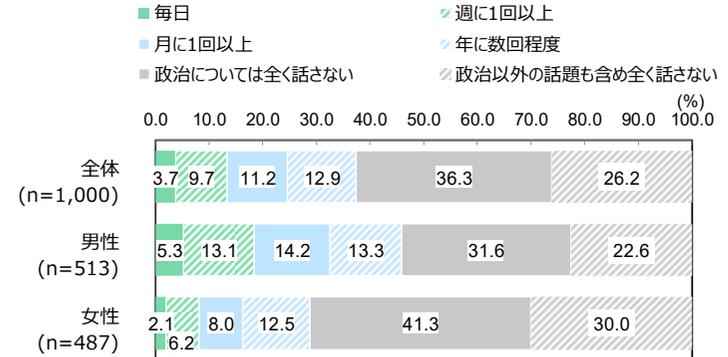
# 政治について話す頻度（詳細）

いずれの相手に対しても、男性の方が女性よりも政治について話す頻度が高い傾向にあった。

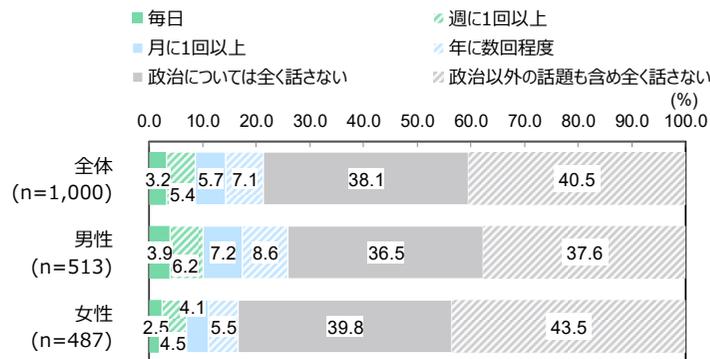
## 家族



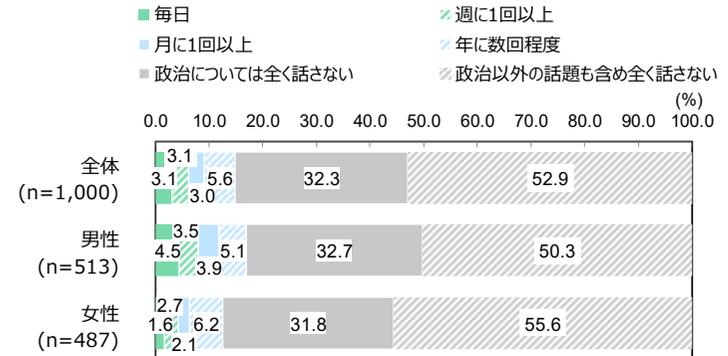
## 友人



## 職場（アルバイト先も含む）の先輩・後輩



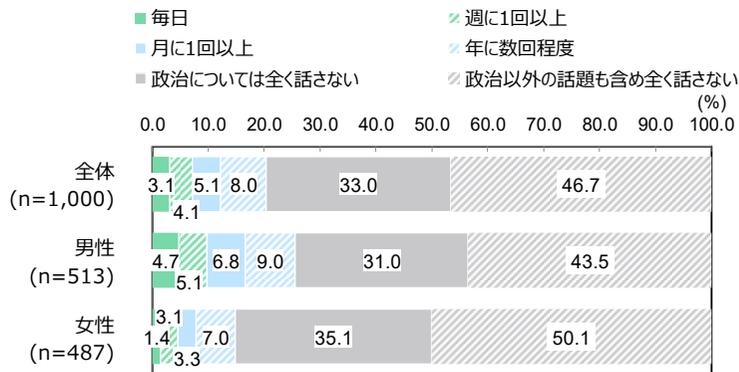
## 近所の人



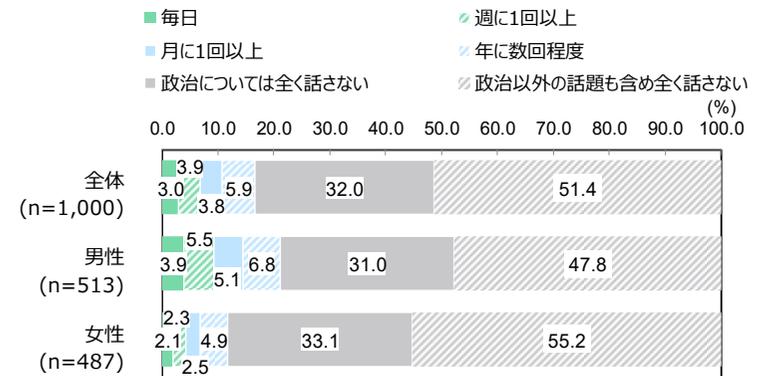
# 政治について話す頻度（詳細）

（続き）

## オンライン上の人（SNS・掲示板）



## その他のコミュニティの人

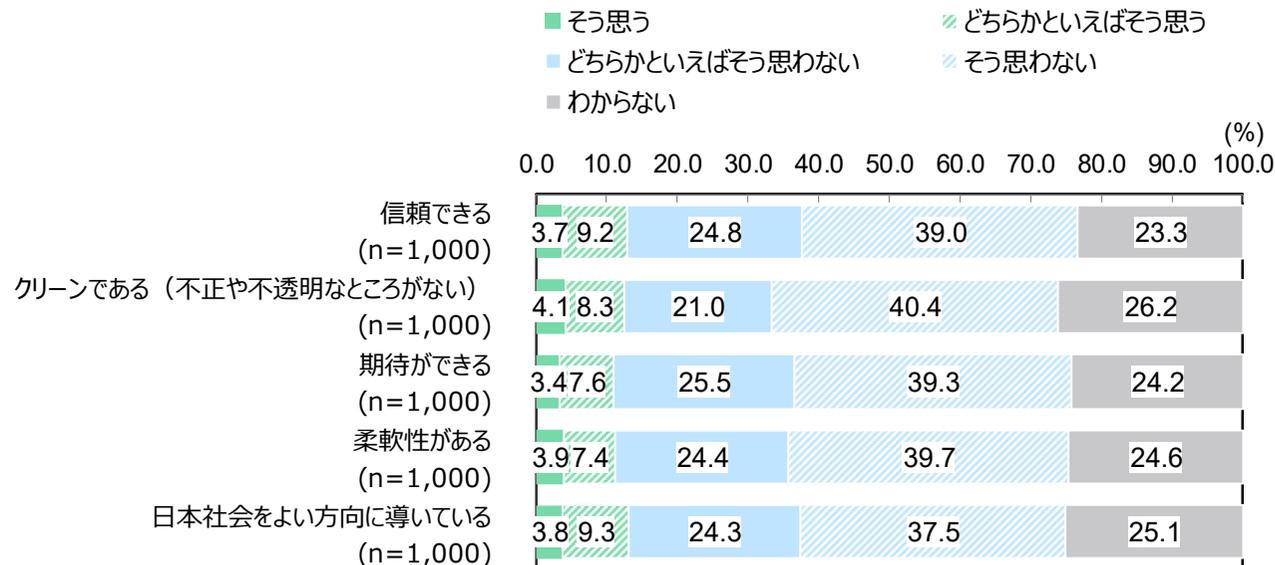


# 政治への印象（全体）

60%以上が今の日本の政治にネガティブな印象（※）をもっている。

※ 各質問への回答の「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の合計。

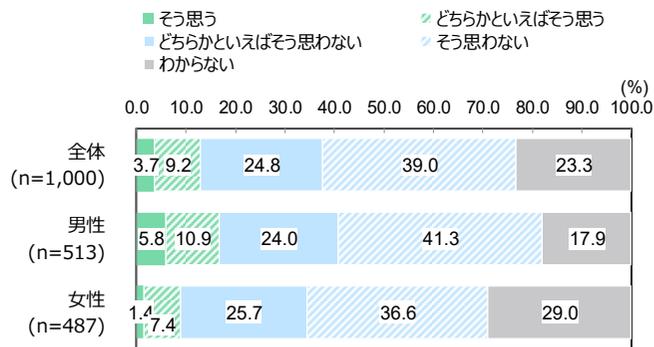
質問8：あなたは、今の日本の政治について、どのような印象を持っていますか。以下の中からそれぞれあてはまるものを選んでください。（単一回答）



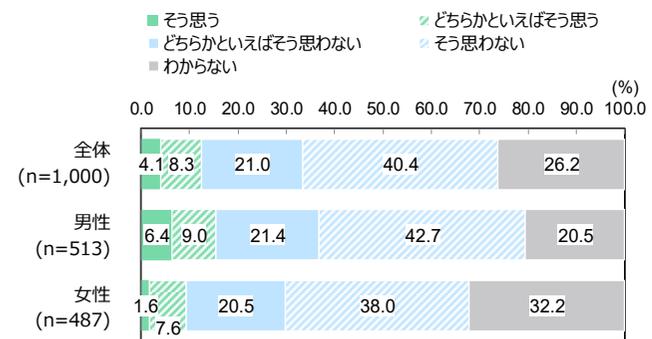
# 政治への印象（詳細）

女性の約30%はいずれの項目でも「わからない」と回答し、その比率は男性より高かった。

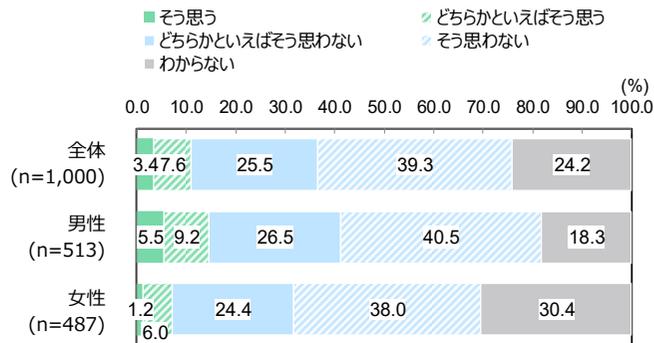
## 信頼できる



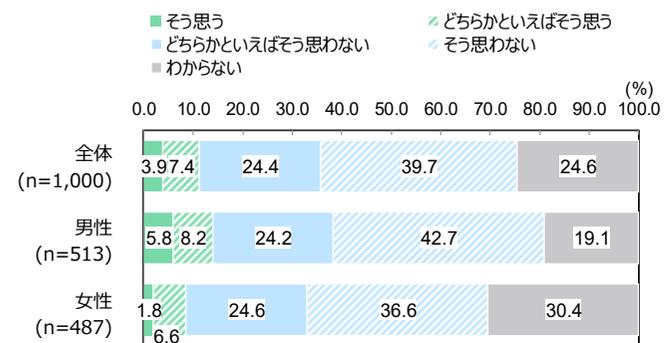
## クリーンである（不正や不透明なところがない）



## 期待ができる



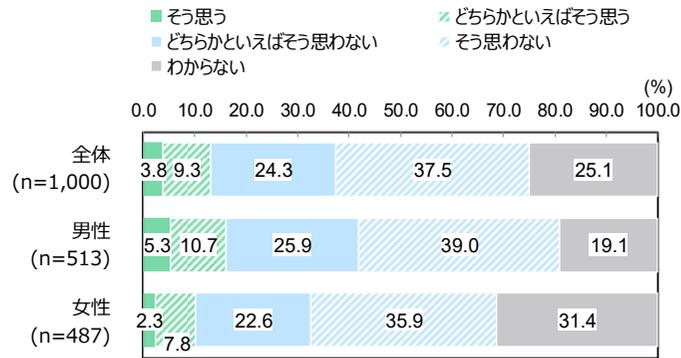
## 柔軟性がある



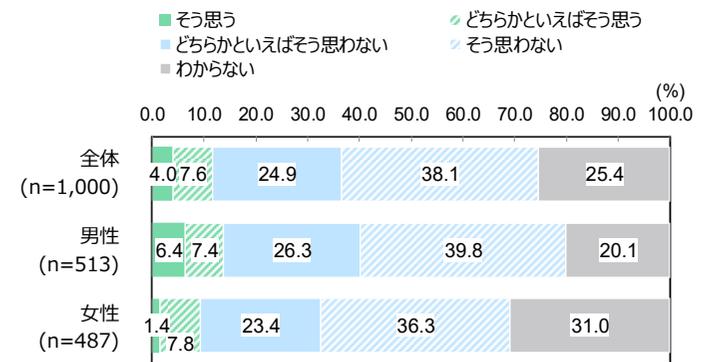
# 政治への印象 (詳細)

(続き)

## 日本社会をよい方向に導いている



## 民意をよく反映している

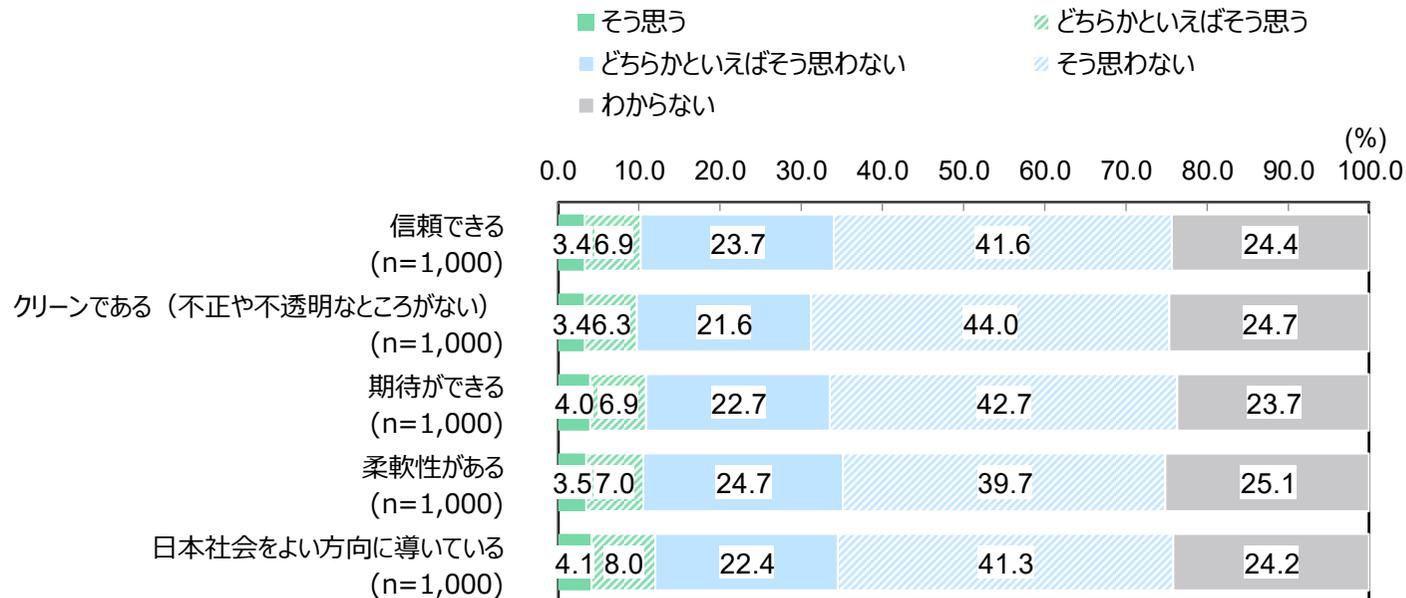


## 政治家への印象（全体）

60%以上が今の日本の政治家にネガティブな印象（※）をもっている。  
政治への印象と同様である。

※ 「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の合計。

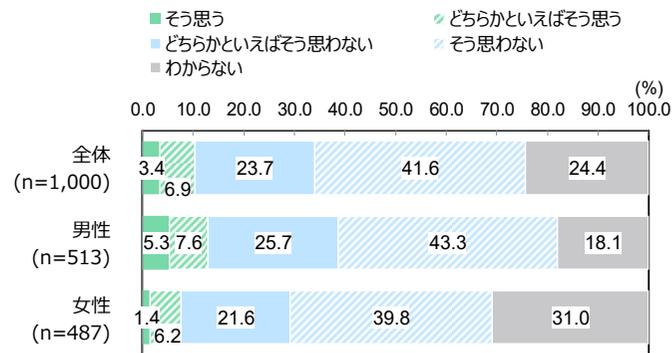
質問9：あなたは、今の日本の政治家について、どのような印象を持っていますか。以下の中からそれぞれあてはまるものを選んでください。（単一回答）



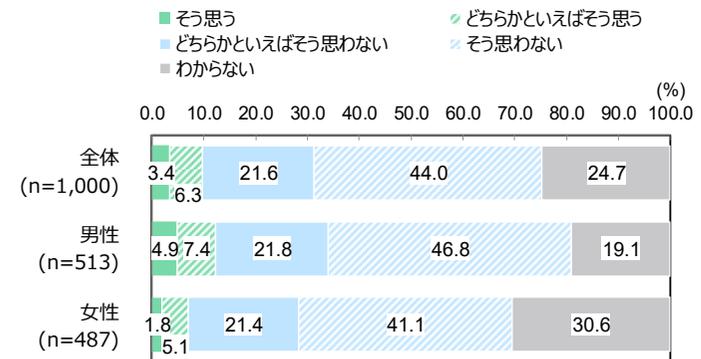
# 政治家への印象（詳細）

女性の約30%はいずれの項目でも「わからない」と回答し、その比率は男性より高かった。政治への印象と同様である。

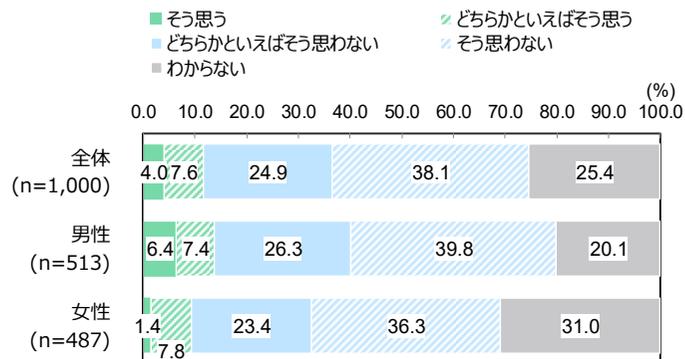
## 信頼できる



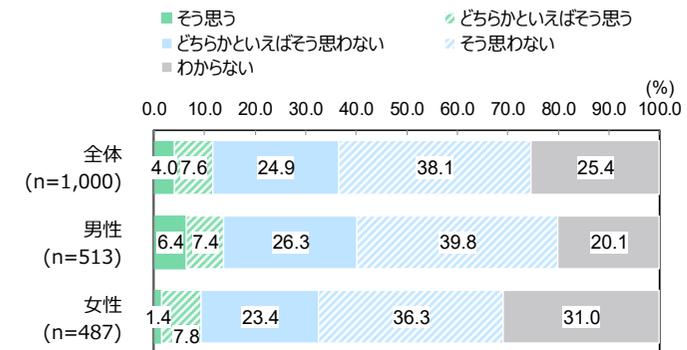
## クリーンである（不正や不透明なところがない）



## 期待ができる



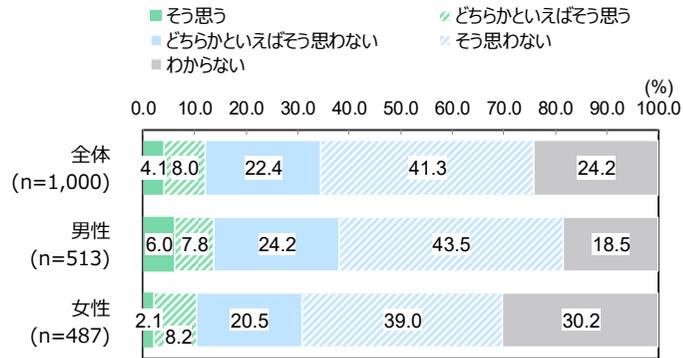
## 柔軟性がある



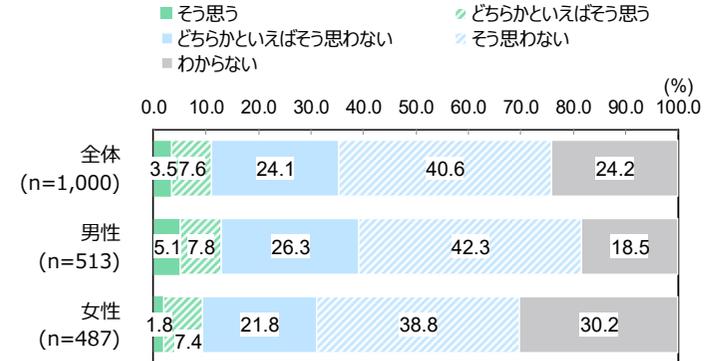
# 政治家への印象（詳細）

（続き）

## 日本社会をよい方向に導いている



## 民意をよく反映している



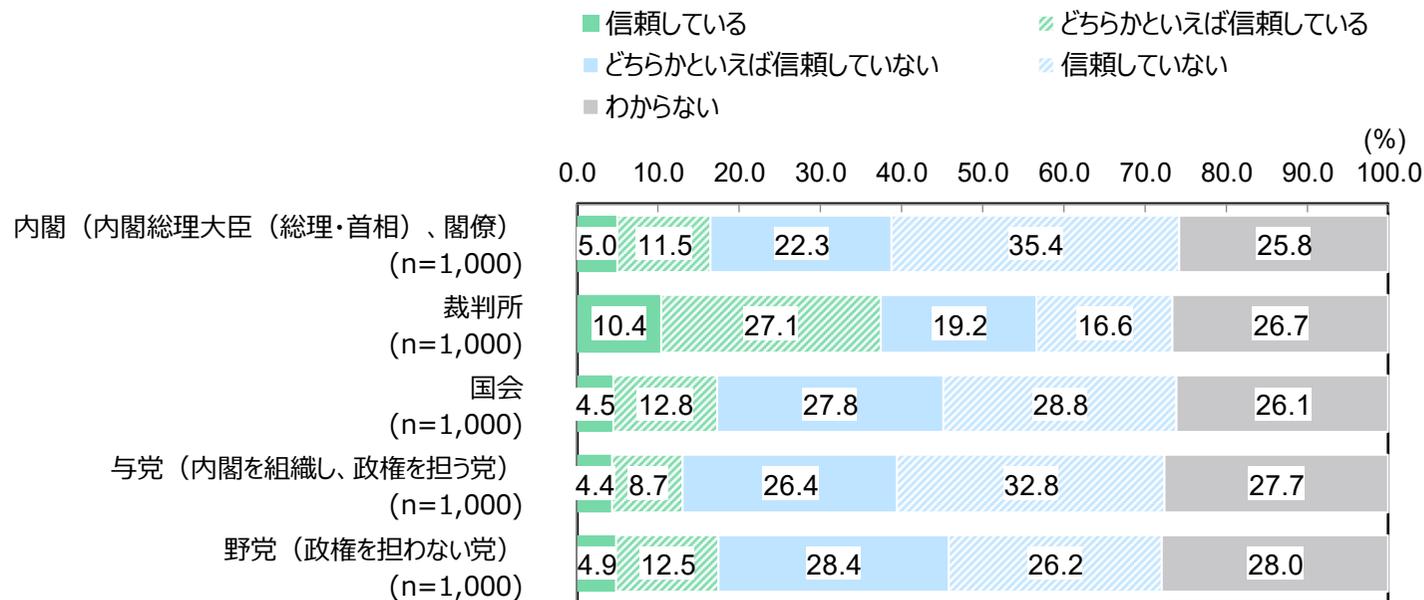
# 政治に関する国家機関等への信頼度（全体）

50%以上が内閣、国会、与野党を信頼していない（※1）。  
 裁判所のみ「信頼している」（※2）が「信頼していない」（※1）を上回る。

※1 「どちらかといえば信頼していない」、「信頼していない」の合計。

※2 「どちらかといえば信頼している」、「信頼している」の合計。

質問10：あなたは、今の日本の以下の機関について、どの程度信頼していますか。（単一回答）

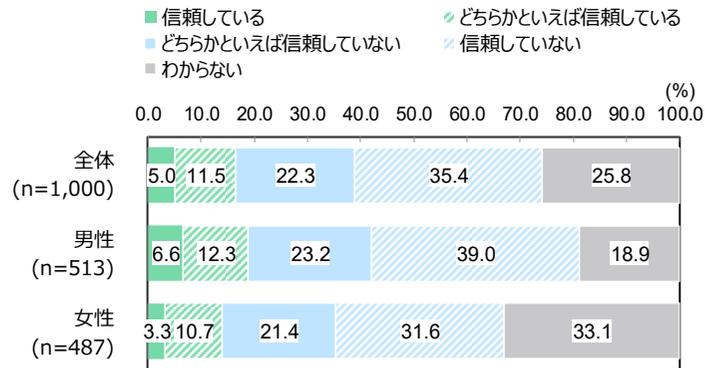


性別

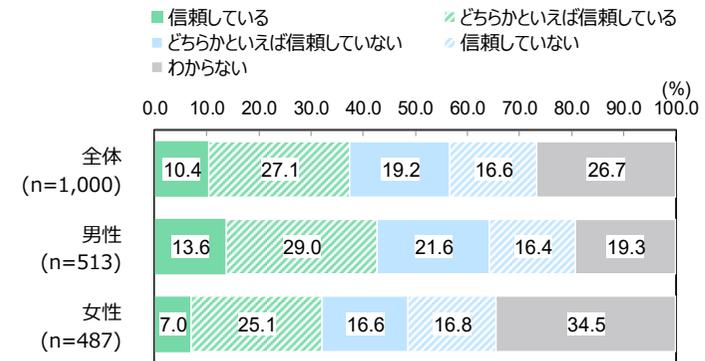
# 政治に関する国家機関等への信頼度（詳細）

女性の30%以上はいずれの機関の信頼度にも「わからない」と回答し、その比率は男性より高かった。政治・政治家への印象と同様の傾向である。

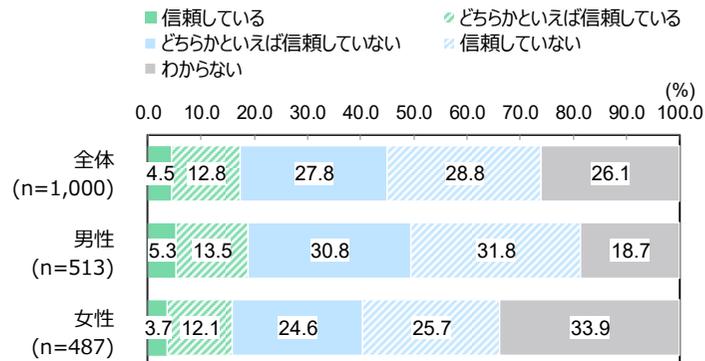
## 内閣（内閣総理大臣（総理・首相）、閣僚）



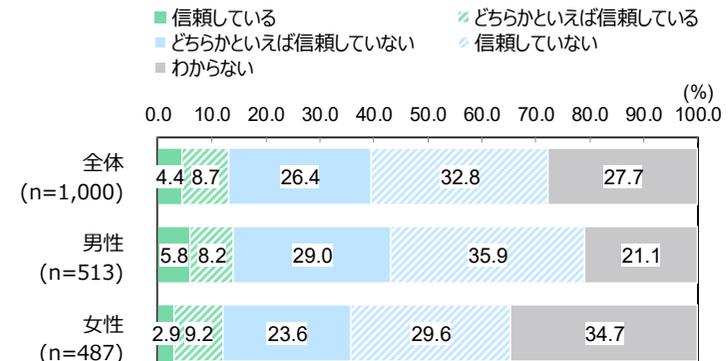
## 裁判所



## 国会



## 与党（内閣を組織し、政権を担う党）

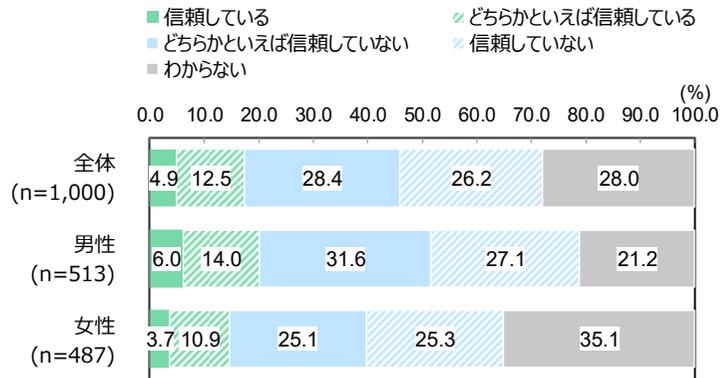


性別

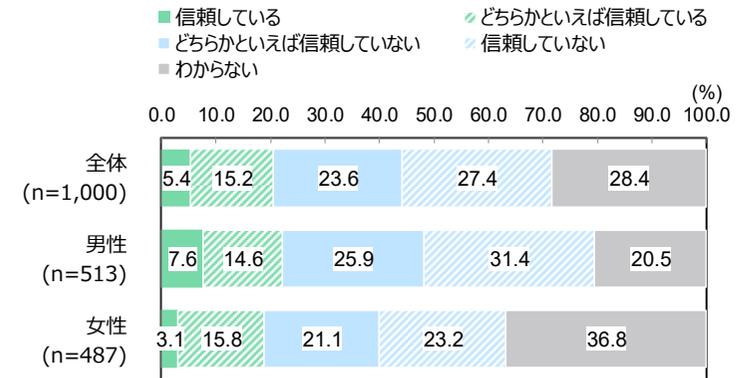
# 政治に関する国家機関等への信頼度（詳細）

(続き)

## 野党（政権を担わない党）



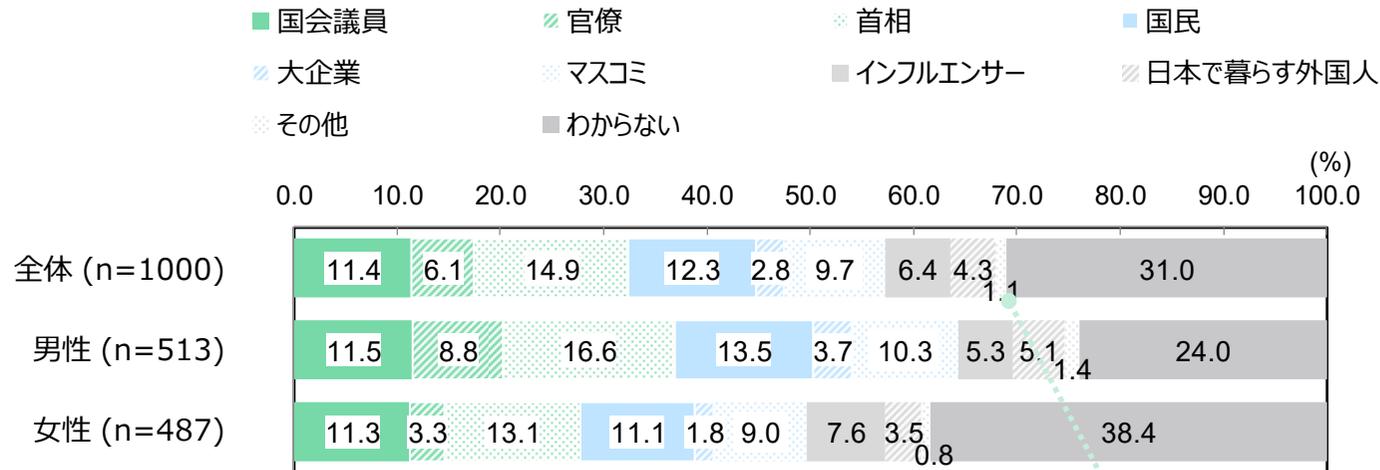
## 中央省庁（例：財務省、総務省など）



# 政治に最も影響を与えている主体

今の日本の政治に最も影響を与えている人・組織の質問への回答は分散しており、「首相」、「国民」、「国会議員」、「マスコミ」が10%程度で拮抗している。

質問11：あなたは、今の日本の政治に最も影響を与えているのは主に誰だと思いますか。  
(単一回答)



「その他」の自由記述  
財務省（複数回答）、自民党、参政党、トランプ関税、老人、特定の政治家（氏名記載）、お金のいる人、インターネットでの情報発信されたもの、いない

## 地方議員の年収の妥当性

約50%が今の日本の地方議員の年収を高い（※）と回答。  
妥当・低いを大きく上回っている。

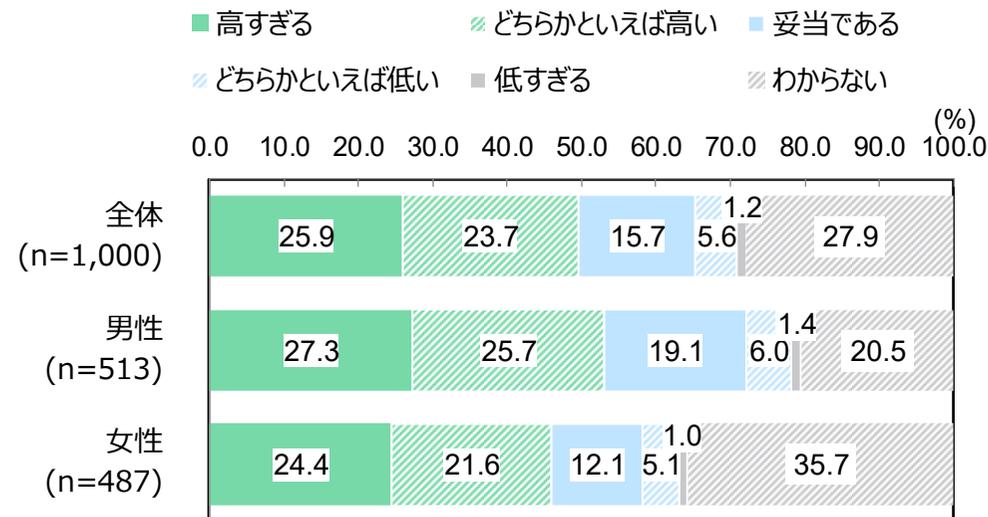
※「高すぎる」、「どちらかといえば高い」の合計。

質問12：あなたは、今の日本の地方議員の年収について妥当であると感じますか。（単一回答）

説明：地方議員1人当たりの平均年収は700万円（2021年）\*です。

\* 各市が公表する議員報酬月額＋支給割合・加算率から割り出した期末手当の額。

（出所）[【地方議員の年収ランキング】最高は横浜市の1,635万円。最安は260万円。人口比で割高なのは・・・（高橋亮平） - エキスパート - Yahoo!ニュース](#)



# 国会議員の年収の妥当性

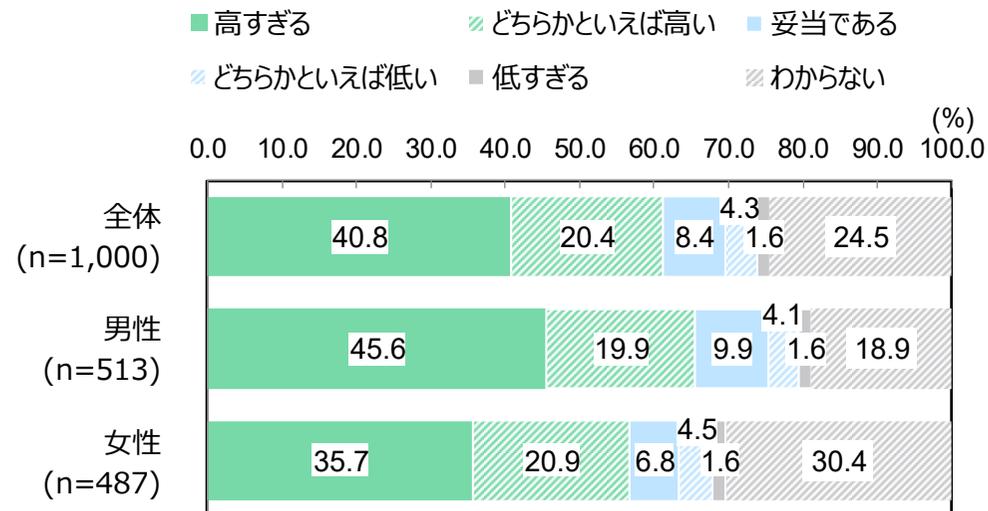
約60%が今の日本の国会議員の年収を高い（※）と回答。  
妥当・低いを大きく上回っている。

※「高すぎる」、「どちらかといえば高い」の合計。

質問13：あなたは、今の日本の国会議員の年収について妥当であると感じますか。（単一回答）

説明：国会議員1人当たりの平均年収は2,530万円（2023年）\*です。

\* 議員報酬以外の副収入も含めた年間所得。

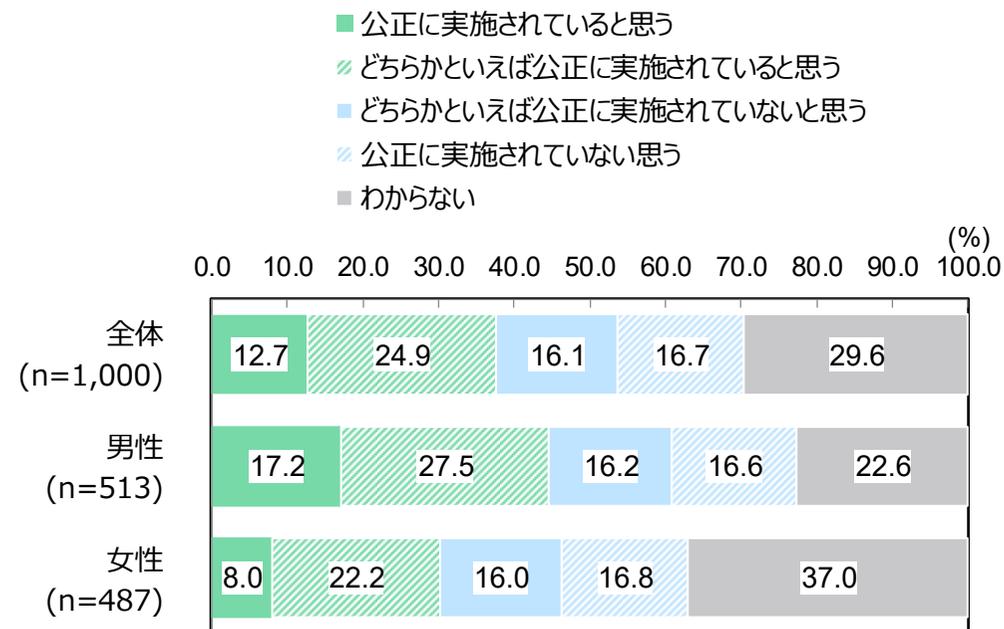


# 選挙の公正性

30%以上が、今の日本の選挙が公正に実施されていない（※）と思っている。

※「公正に実施されていないと思う」、「どちらかといえば公正に実施されていないと思う」の合計。

質問14：あなたは、今の日本の選挙は公正に（不正なく）実施されていると思いますか。  
（単一回答）

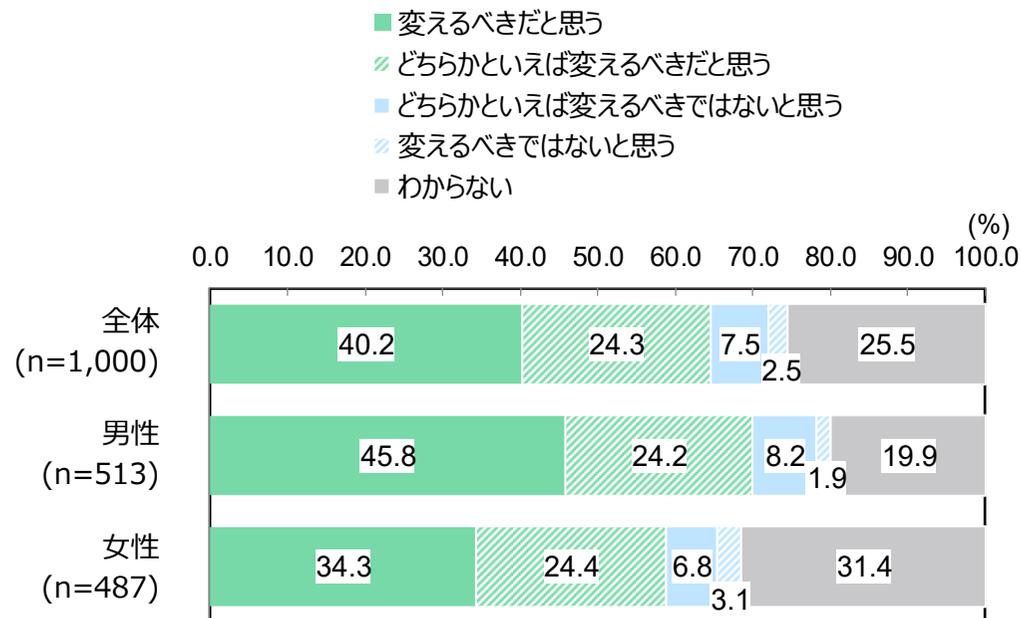


# 今の日本の政治を変えるべきか

約2/3は、今の日本の政治を変えるべき（※）と回答した。

※「変えるべきだと思う」、「どちらかといえば変えるべきだと思う」の合計。

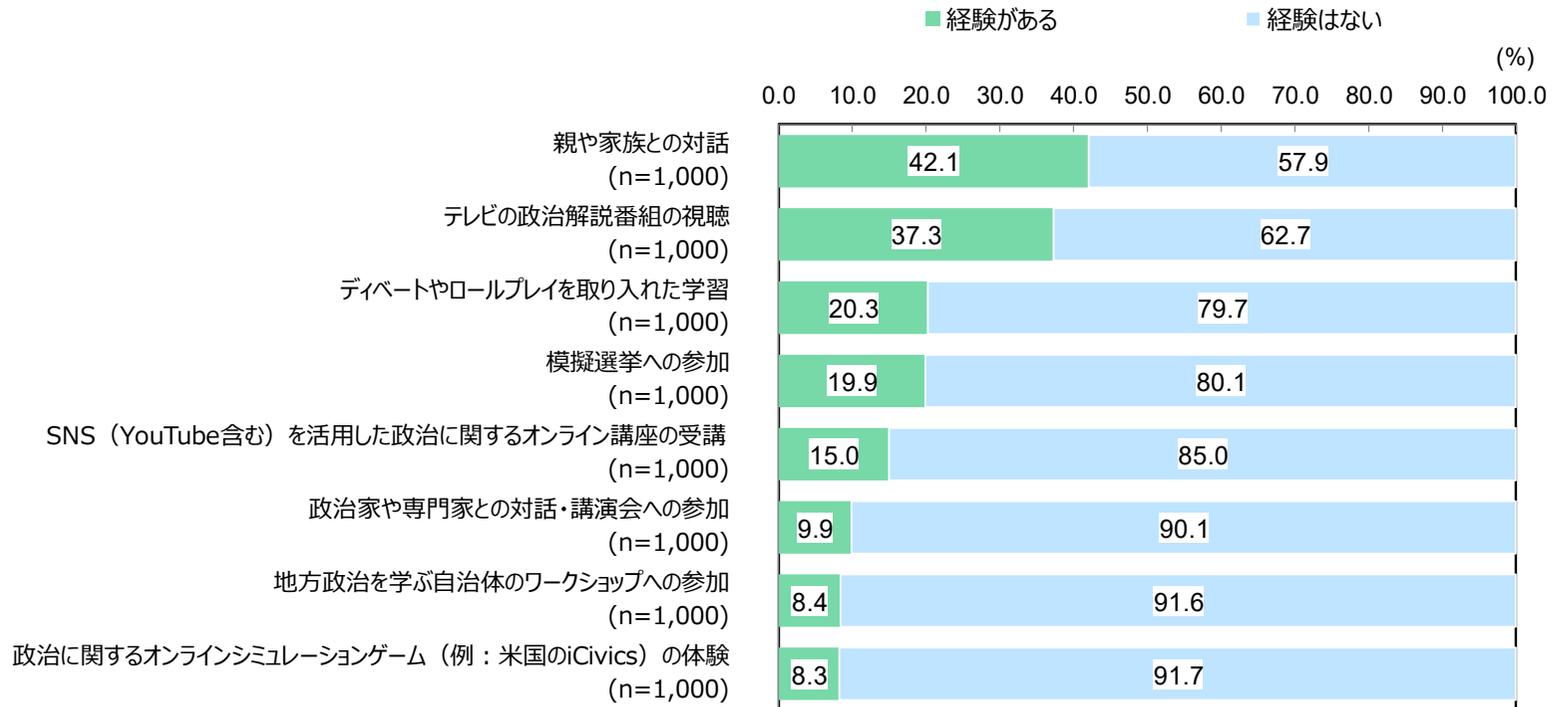
質問15：あなたは日本の政治を変えるべきだと思いますか。（単一回答）



## 政治の学習経験（全体）

政治の学習経験では「親や家族との対話」、「テレビの政治解説番組の視聴」が多かった。「ディベート・ロールプレイ」「模擬選挙への参加」の経験があると約20%が回答した。

質問16：あなたはこれまでに政治についてどのように学習しましたか。それぞれについて経験の有無を選択してください。（単一回答）

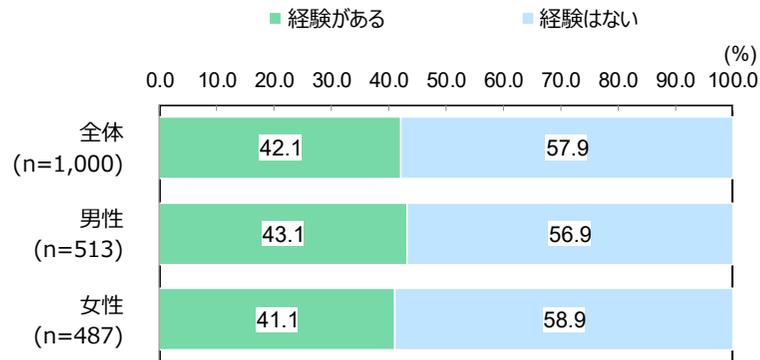


※ 全体のみ、「経験がある」の降順で掲載。

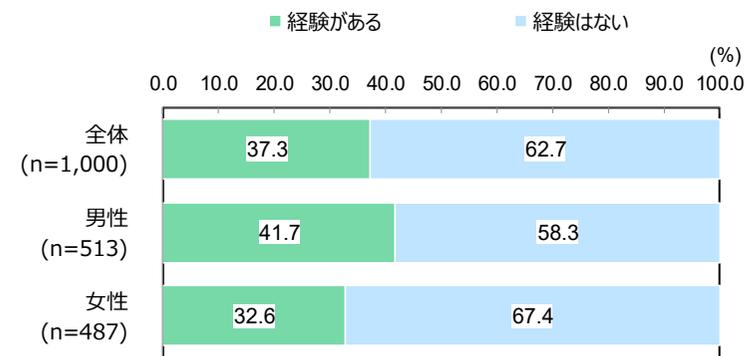
# 政治の学習経験（詳細）

親や家族との対話による政治の学習経験は、男女差は見られなかった。  
 その他は男性の方が経験があると答えた比率が高い傾向。

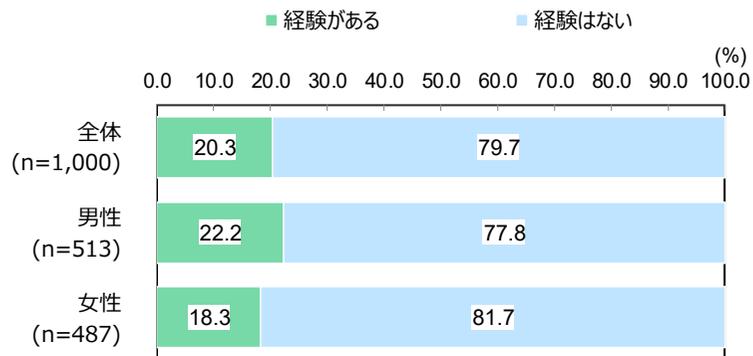
## 親や家族との対話



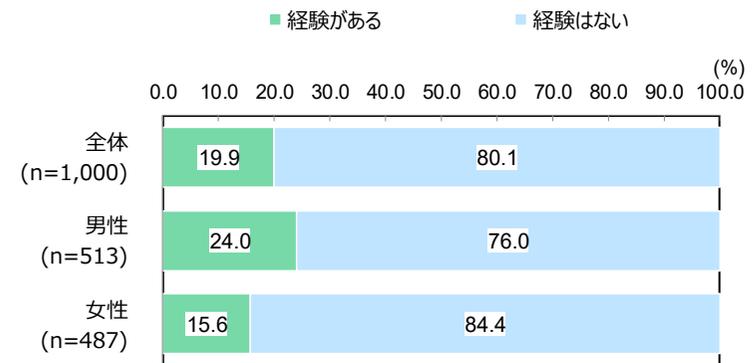
## テレビの政治解説番組の視聴



## ディベートやロールプレイを取り入れた学習



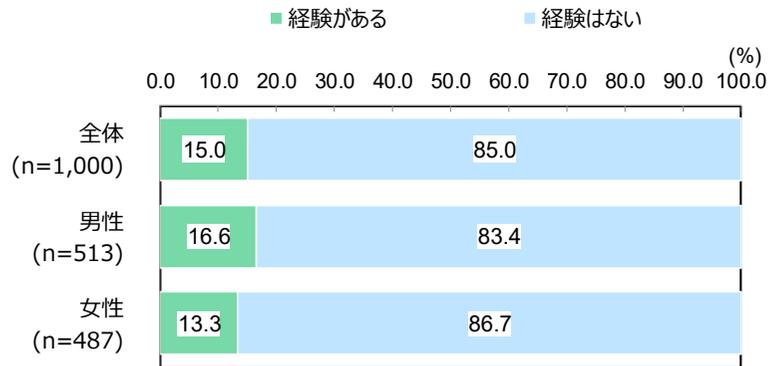
## 模擬選挙への参加



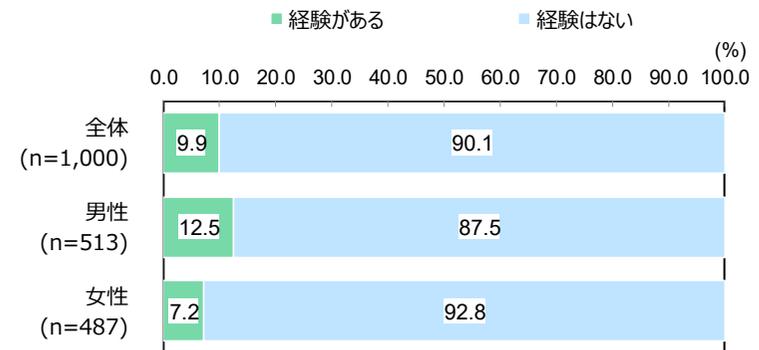
# 政治の学習経験（詳細）

（続き）

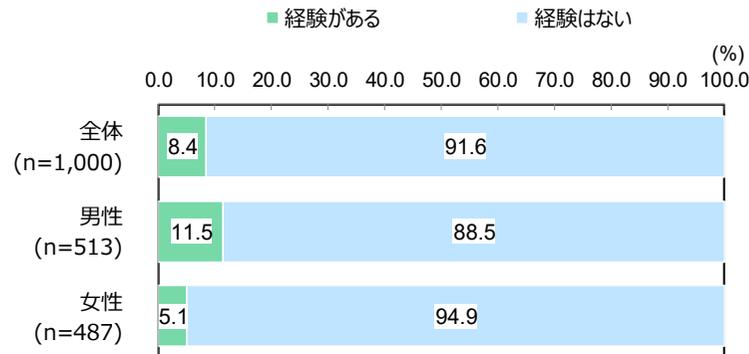
## SNS（YouTube含む）を活用した政治に関するオンライン講座の受講



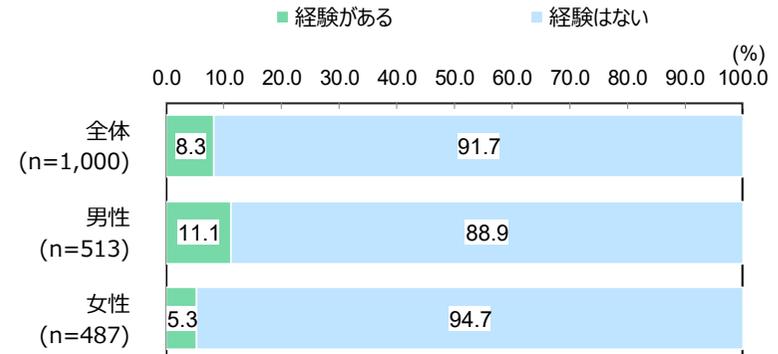
## 政治家や専門家との対話・講演会への参加



## 地方政治を学ぶ自治体のワークショップへの参加



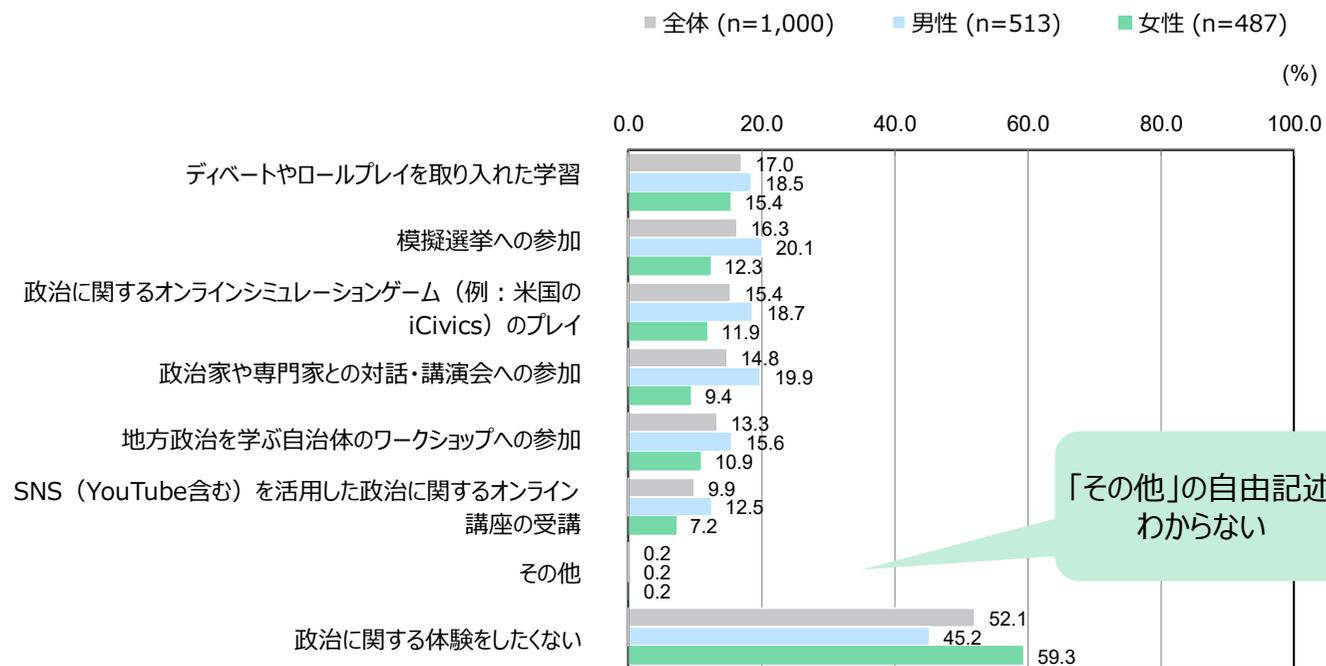
## 政治に関するオンラインシミュレーションゲーム（例：米国のiCivics）の体験



# 体験してみたい政治に関する取り組み

約50%は「政治に関する体験をしたくない」と回答。  
体験したいプログラムで突出しているものはない。

質問17：政治に関して、あなたが体験したいと思うものを選択してください。（複数回答）

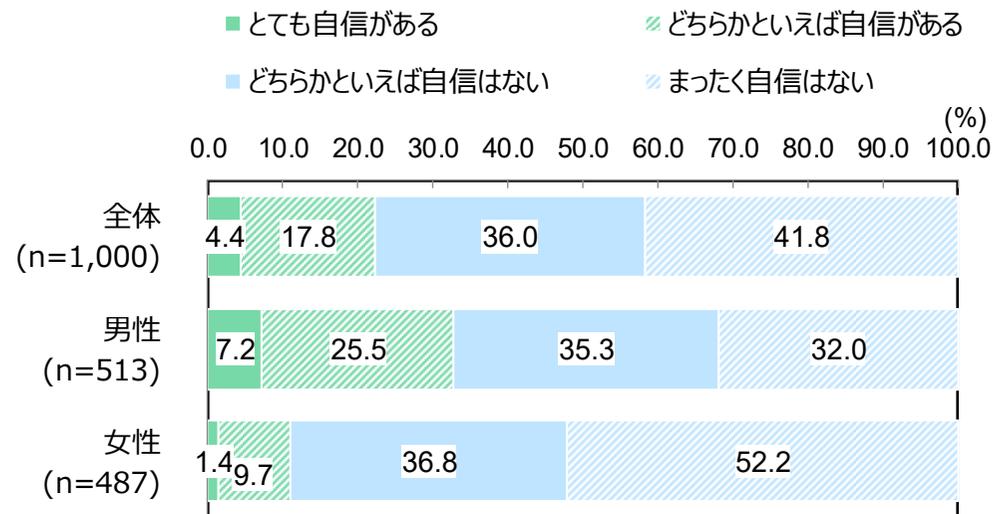


※ 全体の降順で掲載。

## 政治知識に関する自信

全体の約80%（男性約70%、女性約90%）は、自身の政治知識に自信はない（※）。  
 ※「どちらかといえば自信はない」、「まったく自信はない」の合計。

質問18：あなたは、自分自身の政治に関する知識について、どの程度自信がありますか。  
 （単一回答）

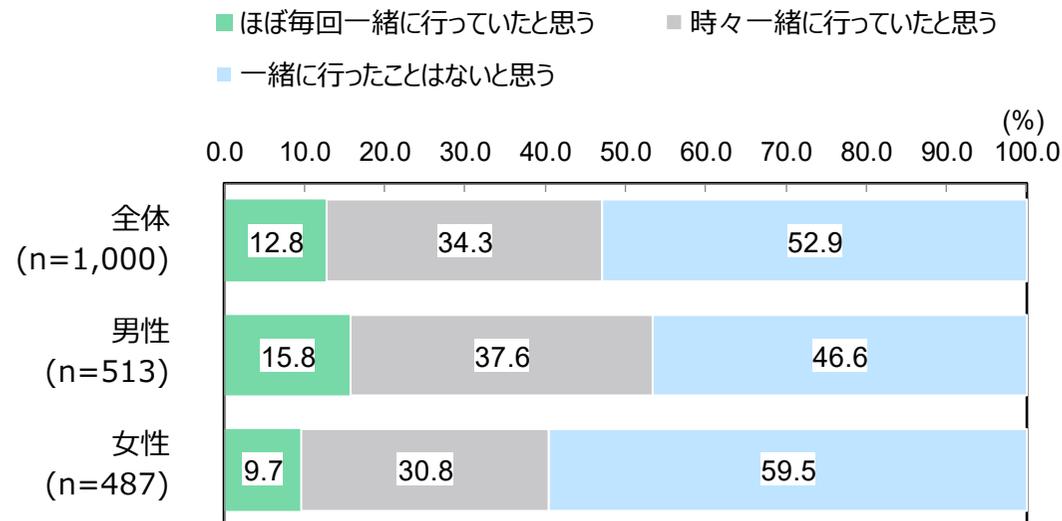


## 親／保護者の投票への同行頻度

50%弱は、自分が子どもの頃に、親／保護者の投票と一緒にいた（※）ことがある。

※「ほぼ毎回一緒にいたと思う」、「時々一緒にいたと思う」の合計。

質問19：あなたが子どもの頃、選挙の際に、親／保護者の投票にどれくらいの頻度について行っていましたか。（単一回答）



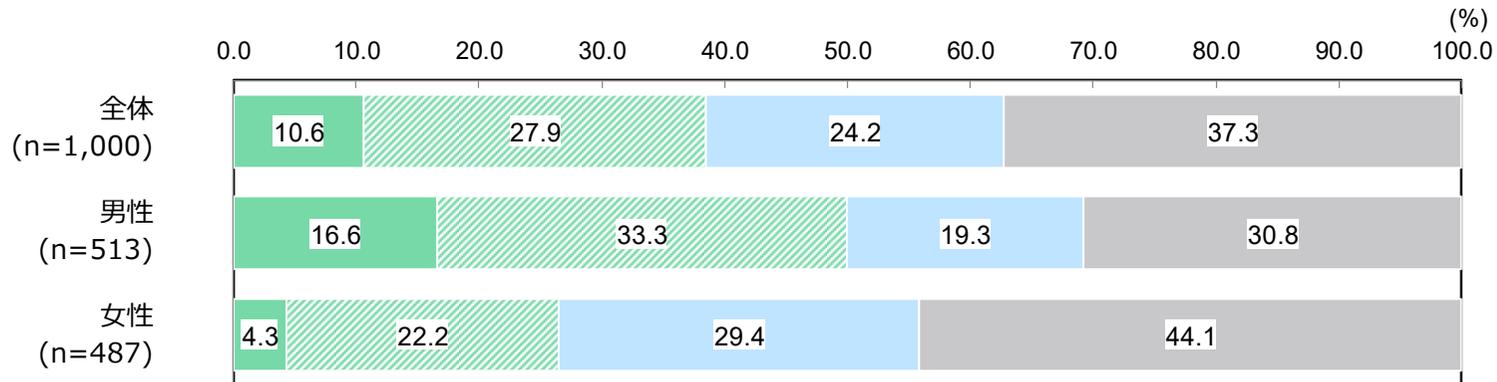
## 次回参議院議員選挙の認知

約40%が今夏の参議院議員選挙を知っている（※）（男性約50%、女性約25%）。一方、約40%がそもそも参議院議員選挙自体を知らない。

※「すでに公表されている1人以上の候補予定者も含めて知っている」、「候補予定者は知らないが、参議院議員選挙が国会の議員を選ぶ選挙であることと2025年夏に行われることは知っている」の合計。

質問20：参議院議員選挙は3年に1度の頻度で開催され、次回の選挙は2025年夏（詳細時期は未公表）に行われます。あなたは、2025年夏に次回参議院議員選挙が行われることを知っていましたか。（単一回答）

- すでに公表されている1人以上の候補予定者も含めて知っている
- ▨ 候補予定者は知らないが、参議院議員選挙が国会の議員を選ぶ選挙であることと2025年夏に行われることは知っている
- 参議院議員選挙が、国会の議員を選ぶ選挙であることは知っているが、2025年夏に行われることを知らなかった
- 参議院議員選挙が、国会の議員を選ぶ選挙であること自体を知らなかった・参議院議員選挙という言葉自体を聞いたことがなかった

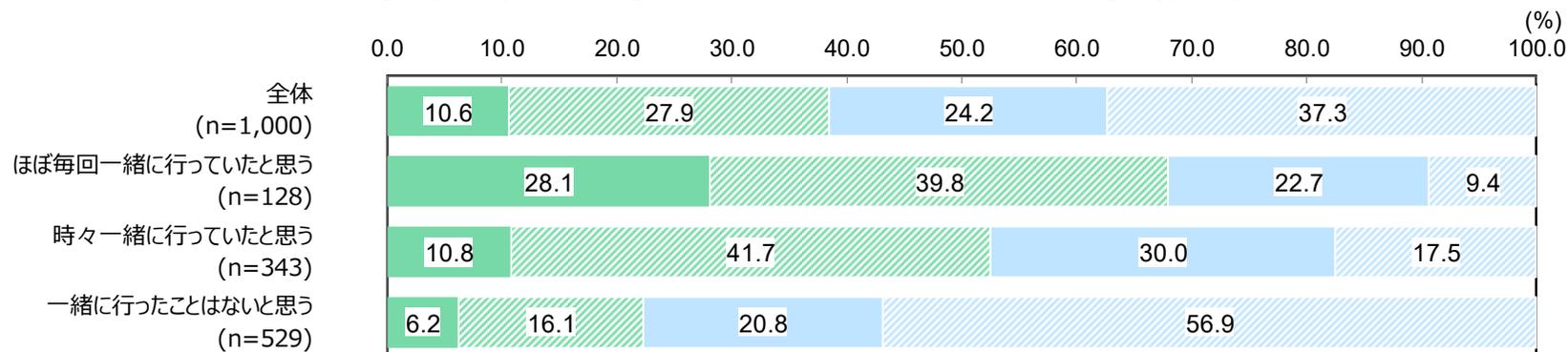


## 次回参議院議員選挙の認知

親／保護者の投票に同行した頻度（自身の認識に基づく）別にみると、一緒に行っていた頻度が高いと認識している人ほど、今夏の参議院議員選挙について候補予定者も含めて知っているという回答した人が多く、逆に参議院議員選挙という言葉自体を知らないという人は少ない。

質問20：参議院議員選挙は3年に1度の頻度で開催され、次回の選挙は2025年夏（詳細時期は未公表）に行われます。あなたは、2025年夏に次回参議院議員選挙が行われることを知っていましたか。（単一回答）

- すでに公表されている1人以上の候補予定者も含めて知っている
- ▨ 候補予定者は知らないが、参議院議員選挙が国会の議員を選ぶ選挙であることと2025年夏に行われることは知っている
- 参議院議員選挙が、国会の議員を選ぶ選挙であることは知っているが、2025年夏に行われることを知らなかった
- ▨ 参議院議員選挙が、国会の議員を選ぶ選挙であること自体を知らなかった・参議院議員選挙という言葉自体を聞いたことがなかった

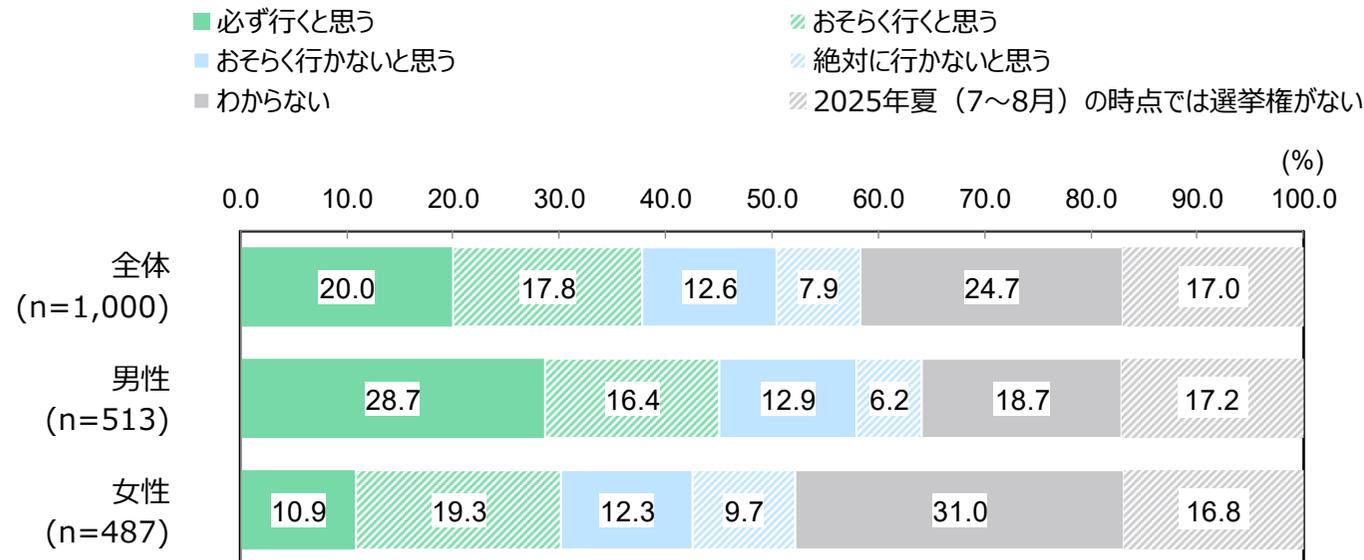


# 次回参議院議員選挙における投票意思

約40%が今夏の参議院議員選挙の投票に行くと思う（※）と回答。

※「必ず行くと思う」、「おそらく行くと思う」の合計。

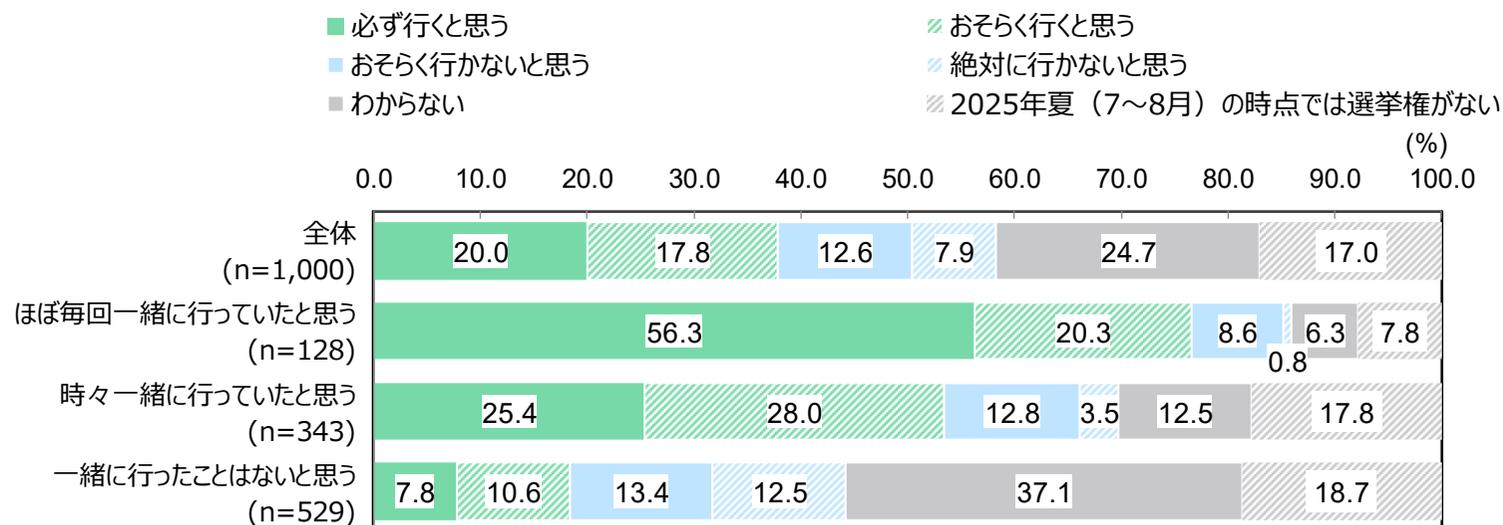
質問21：あなたは、2025年夏（詳細時期は未公表）に行われる参議院議員選挙について、投票に行くと思いますか。（単一回答）



# 次回参議院議員選挙における投票意思

親／保護者の投票に同行した頻度（自身の認識に基づく）別にみると、一緒に行っていた頻度が高いと認識している人ほど、今夏の参議院議員選挙に「必ず行くと思う」との回答が多い。

質問21：あなたは、2025年夏（詳細時期は未公表）に行われる参議院議員選挙について、投票に行くと思いますか。（単一回答）



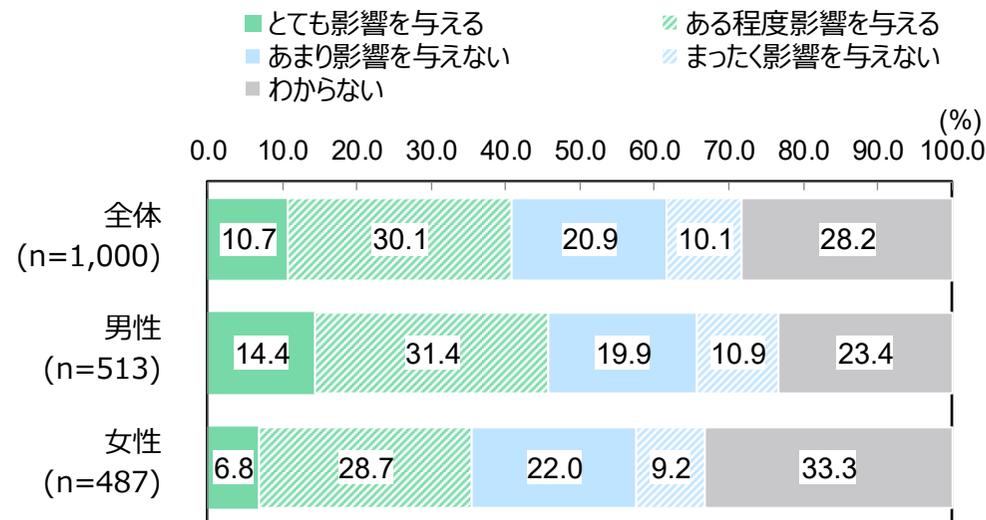
# 自分の投票による政治への影響

約40%が自分の投票が日本の政治に影響を与える（※1）と回答。  
影響を与えない（※2）と回答した人は約30%。

※1 「とても影響を与える」、「ある程度影響を与える」の合計。

※2 「あまり影響を与えない」、「まったく影響を与えない」の合計。

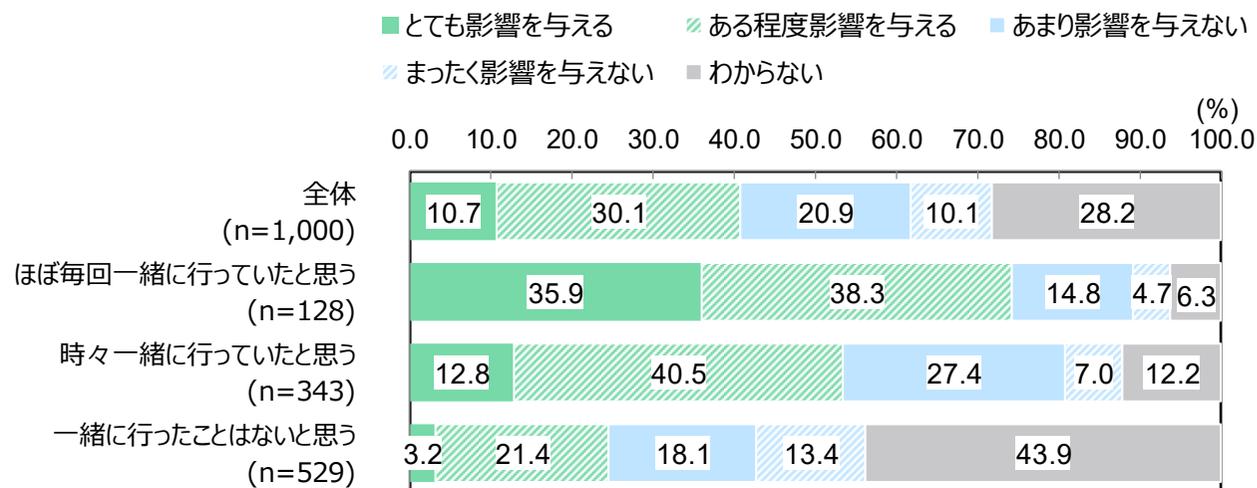
質問22：あなたは、自分の投票が日本の政治にどの程度影響を与えますか。（単一回答）



## 自分の投票による政治への影響

親／保護者の投票に同行した頻度（自身の認識に基づく）別にみると、一緒に行っていた頻度が高いと認識している人ほど、自分の投票が日本の政治に「とても影響を与える」との回答が多い。

質問22：あなたは、自分の投票が日本の政治にどの程度影響を与えますか。（単一回答）

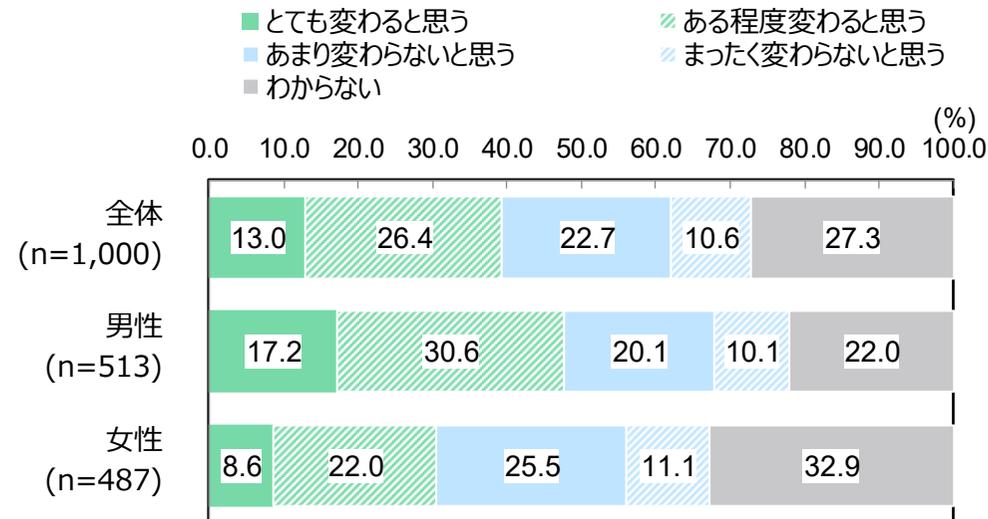


## 選挙結果による自分の生活への影響

約40%（男性約50%、女性約30%）が、選挙の結果次第で自分の生活が変わると思う（※）と回答。

※「とても変わると思う」、「ある程度変わると思う」の合計。

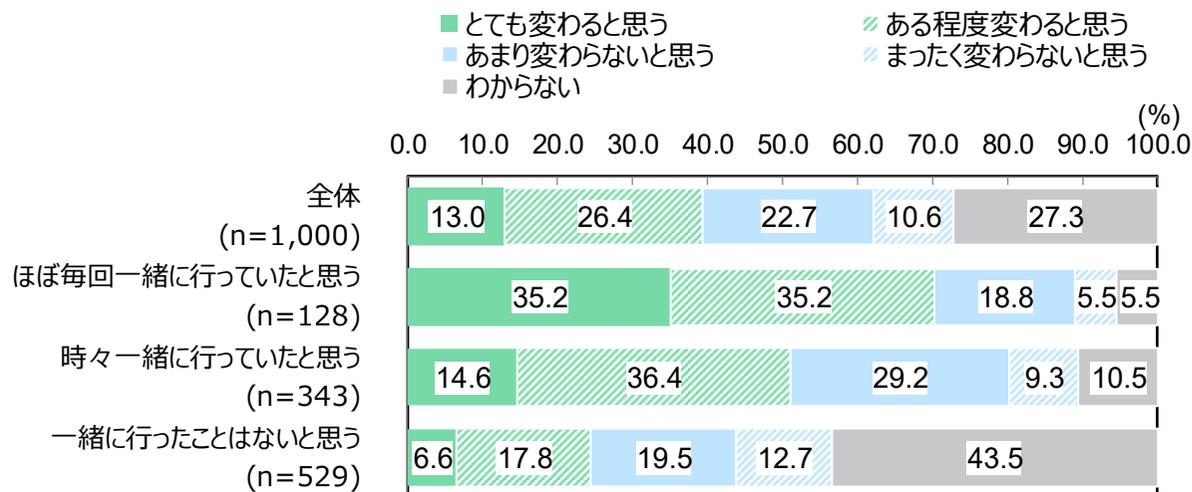
質問23：あなたは、選挙の結果次第であなたの生活が変わると思いますか。（単一回答）



## 選挙結果による自分の生活への影響

親／保護者の投票に同行した頻度（自身の認識に基づく）別にみると、一緒に行っていた頻度が高いと認識している人ほど、選挙の結果次第で自分の生活が「とても変わると思う」との回答が多い。

質問23：あなたは、選挙の結果次第であなたの生活が変わると思いますか。（単一回答）

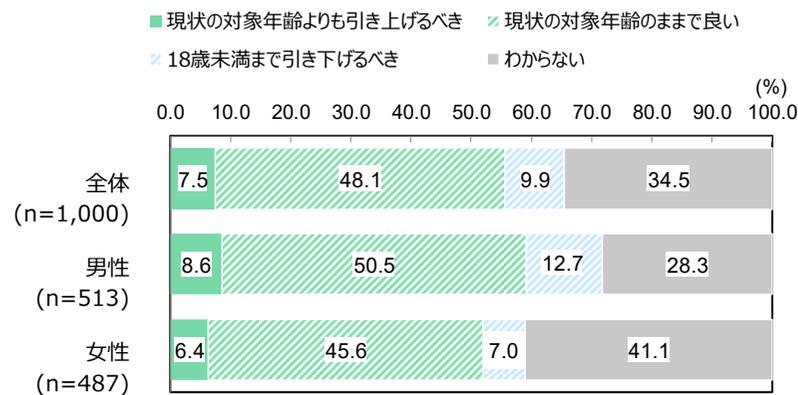


# 選挙権・被選挙権に関する考え

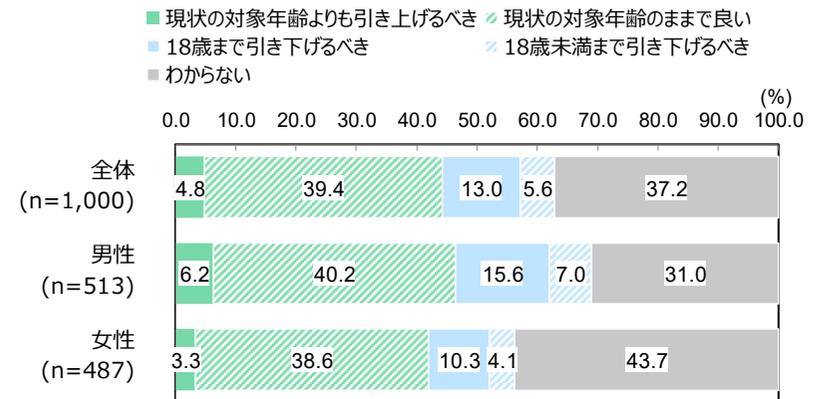
約50%が選挙権18歳について「現状の対象年齢のままで良い」と回答。  
約10%が被選挙権も「18歳まで引き下げるべき」と回答。

質問24：日本では18歳になると選挙権（＝選挙で投票する権利）が与えられます。また、25歳以上（参議院議員、都道府県知事は30歳以上）になると、被選挙権（＝選挙に立候補する権利）が与えられます。選挙権・被選挙権に関するあなたの考えについて、以下の中からあてはまるものを選んでください。（単一回答）

## 選挙権（18歳）



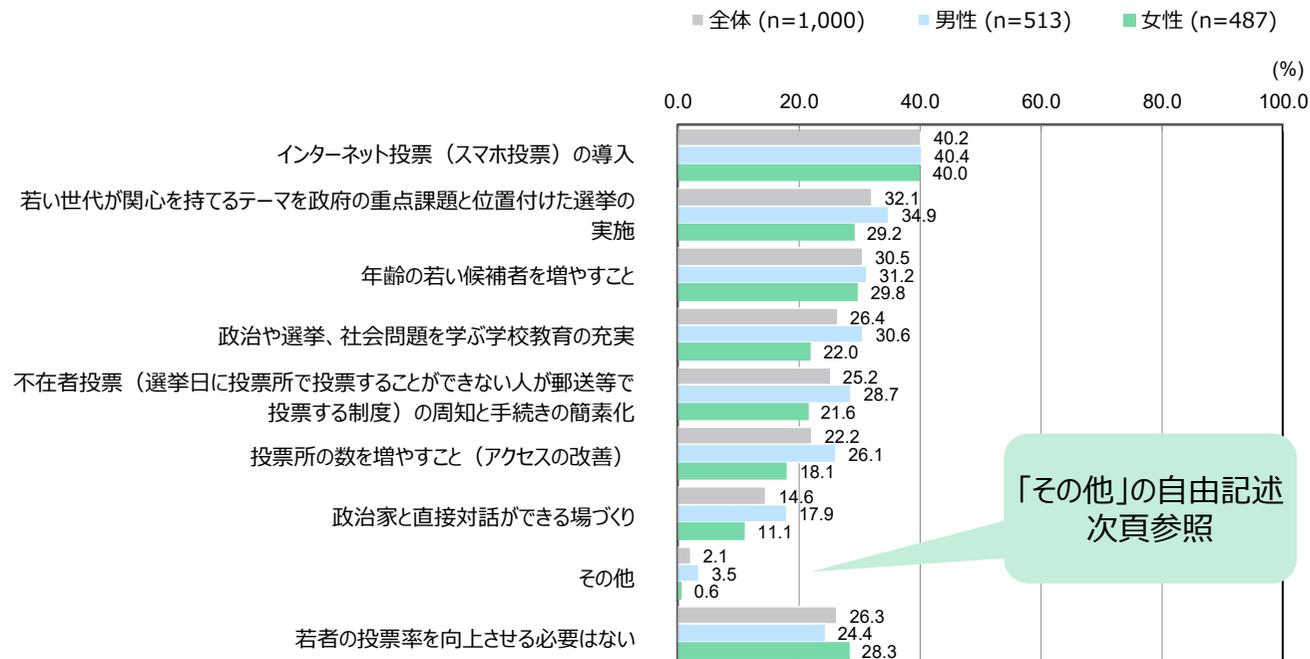
## 被選挙権（25歳または30歳）



## 若者の投票率向上施策

約40%が、若者の投票率向上施策として「インターネット投票（スマホ投票）の導入」を選んだ。一方、約25%は、「若者の投票率を向上させる必要はない」と回答。

質問25：若者の投票率向上に向けて、あなたが必要と考える施策を選択してください。  
（複数回答）



※ 全体の降順で掲載。

# 若者の投票率向上施策

(続き)

質問25：若者の投票率向上に向けて、あなたが必要と考える施策を選択してください。

「その他」の自由記述

- わからない（複数回答）
- わかりやすいリスト作り
- もっと分かりやすく分かるようにして政治 = 難しい話というイメージを無くせば良いと思う
- SNSなどでの情報発信
- インターネットなどでも選挙について触れること
- 各区の立候補者の政策を中立的な立場の人がまとめて郵送する
- 政治家が公約とか言ってる動画を投稿する
- 投票をすることのメリットを示す
- 投票した人に目に見える利益が出るようにすること
- 投票したら特典をもらえる（投票の証拠を見せれば飲食店などで割引など）
- オーストラリアの選挙ソーセージ？のような取り組みをしたり、シンガポールのように投票を義務化する
- 強制実施
- 投票の義務化
- 選挙に行かないと罰金を科す
- 投票しなかった場合の罰金
- 選挙に行かない人は道路交通法のように違反の回数に応じて禿があれば良い。
- 老害を減らすこと
- 団体投票の廃止
- 住民票を移してなくても投票できる仕組み
- 1人で行こうとは思わない

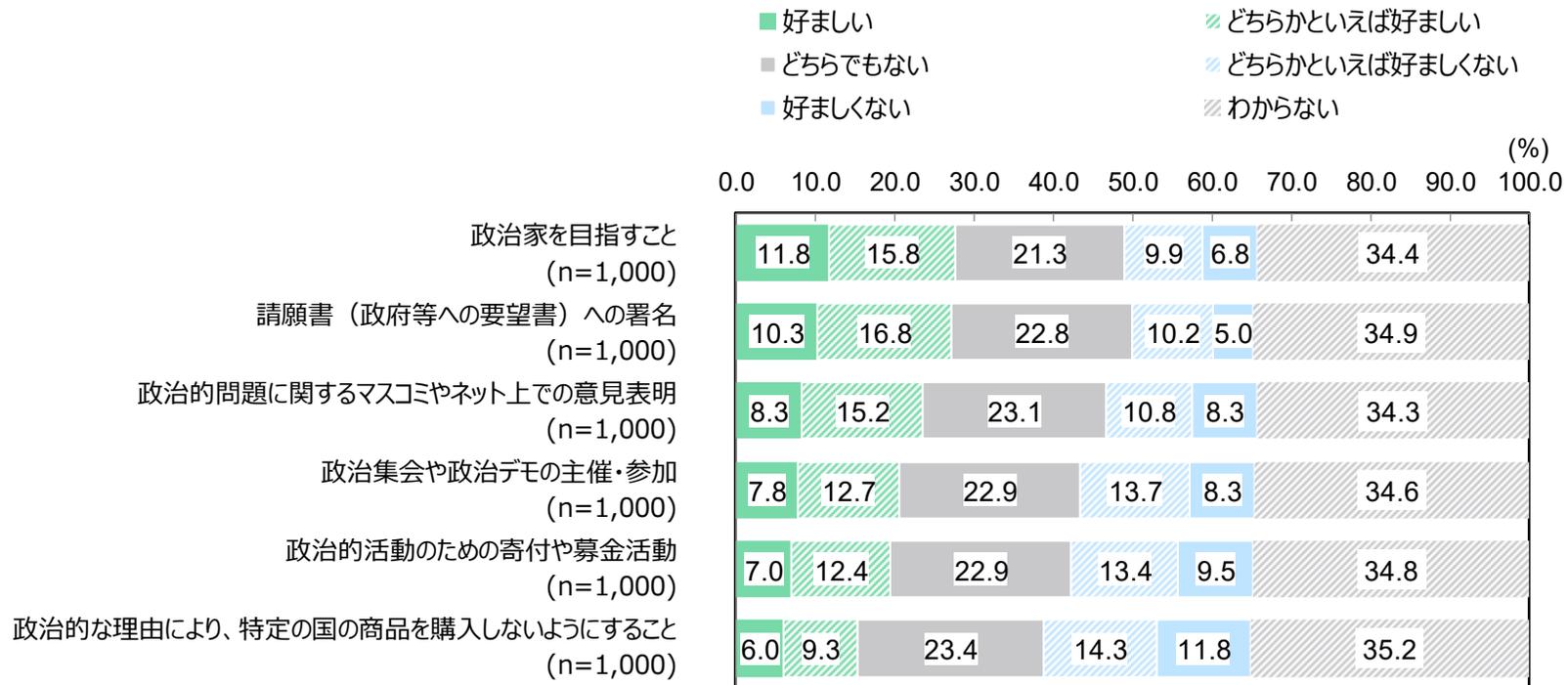
# 政治行動に関する考え（全体）

周りの人がとる政治行動に対する印象を聞いたところ、どの行動においても「わからない」「どちらでもない」の順に多かった。

「政治家を目指すこと」や「請願書（政府等への要望書）への署名」などは好ましい（※1）が好ましくない（※2）を上回った。

※1「好ましい」、「どちらかといえば好ましい」の合計。 ※2「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」の合計。

質問26：次に示す行動について、あなたの周りの人がとる政治行動としてどのように思うか、あなたの考えを教えてください。（単一回答）



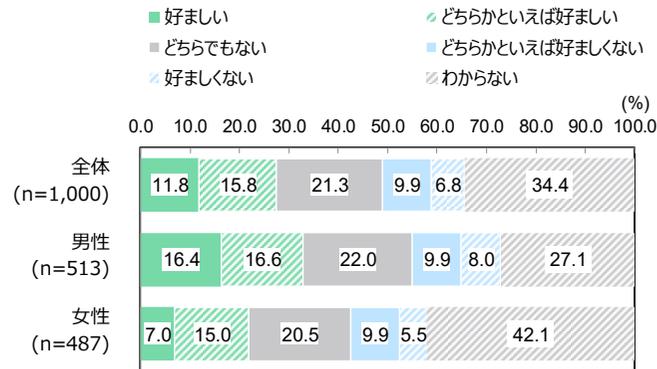
※ 全体のみ、「好ましい」の降順で掲載。

# 政治行動に関する考え（詳細）

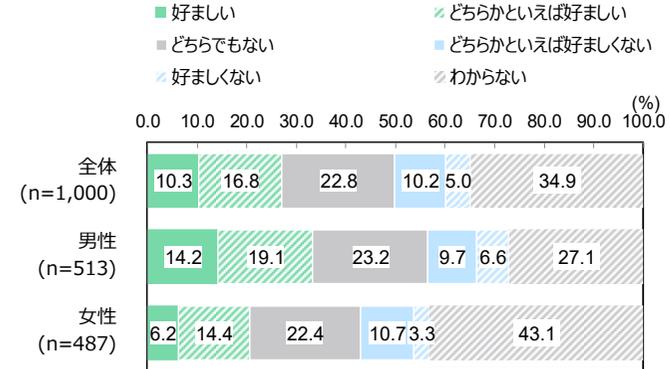
いずれの項目においても男性の方が女性よりも、周りの人がとる政治行動に対して好ましいと回答した（※）人の割合が多い。

※「好ましい」、「どちらかといえば好ましい」の合計。

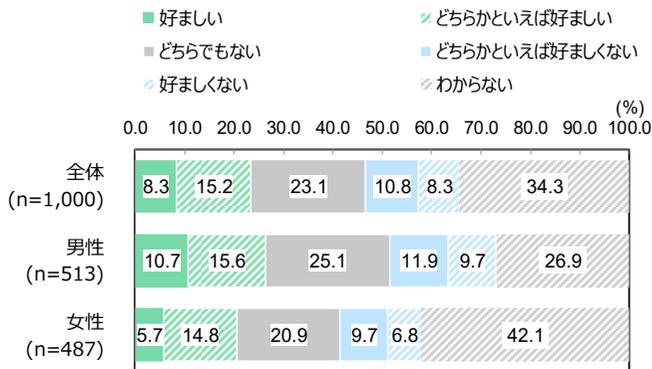
## 政治家を目指すこと



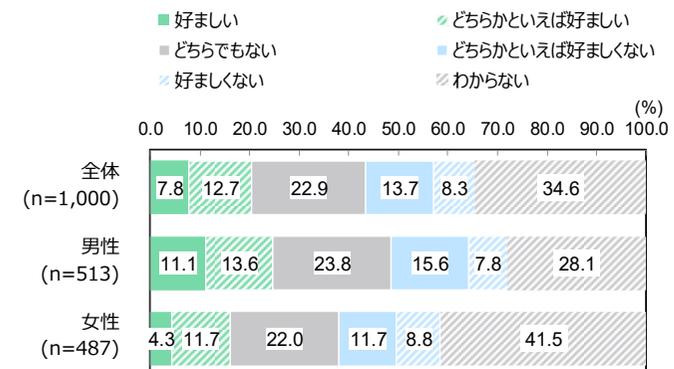
## 請願書（政府等への要望書）への署名



## 政治的問題に関するマスコミやネット上での意見表明



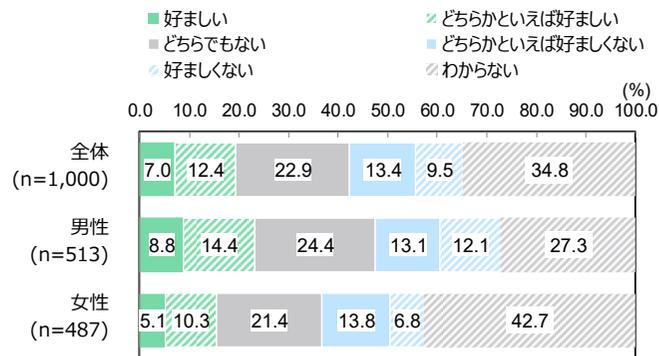
## 政治集会や政治デモの主催・参加



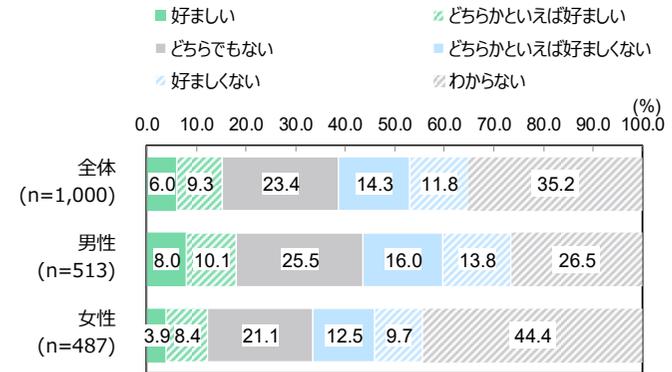
# 政治行動に関する考え (詳細)

(続き)

## 政治的活動のための寄付や募金活動



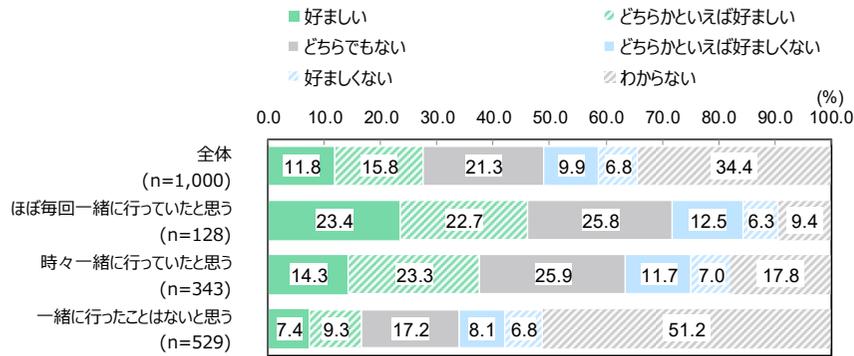
## 政治的な理由により、特定の国の商品を購入しないようにすること



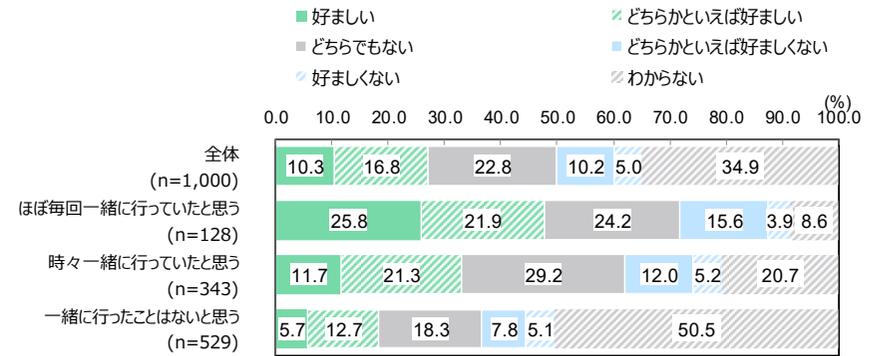
# 政治行動に関する考え（詳細）

親／保護者の投票に同行した頻度（自身の認識に基づく）別にみると、一緒に行っていた頻度が高いと認識している人ほど、自分の周りの人がとる様々な政治行動に対して「好ましい」と回答している。

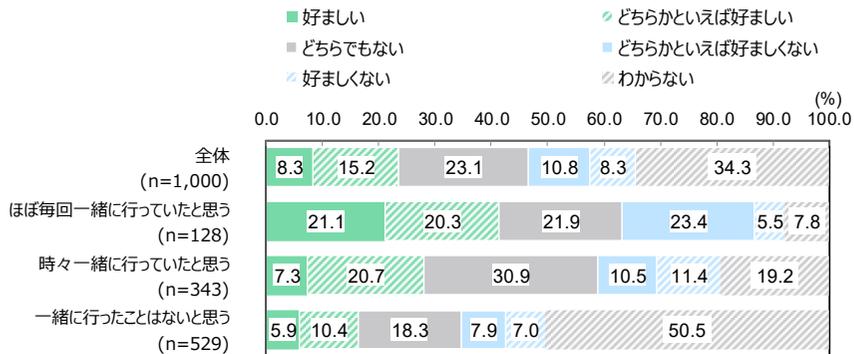
## 政治家を目指すこと



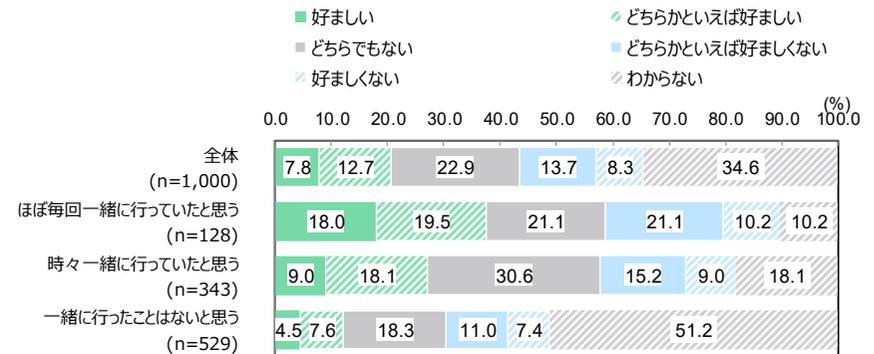
## 請願書（政府等への要望書）への署名



## 政治的問題に関するマスコミやネット上での意見表明



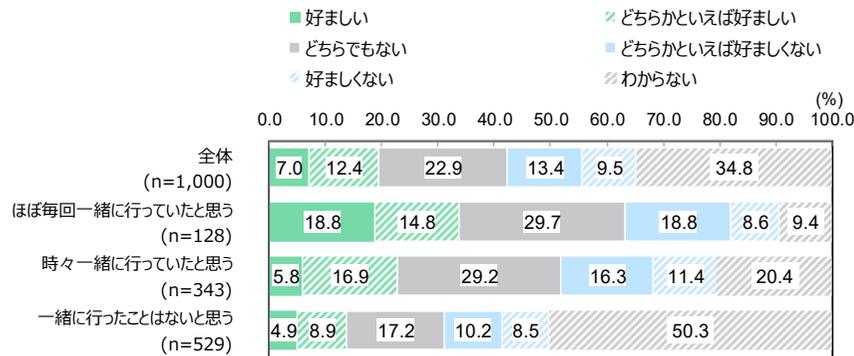
## 政治集会や政治デモの主催・参加



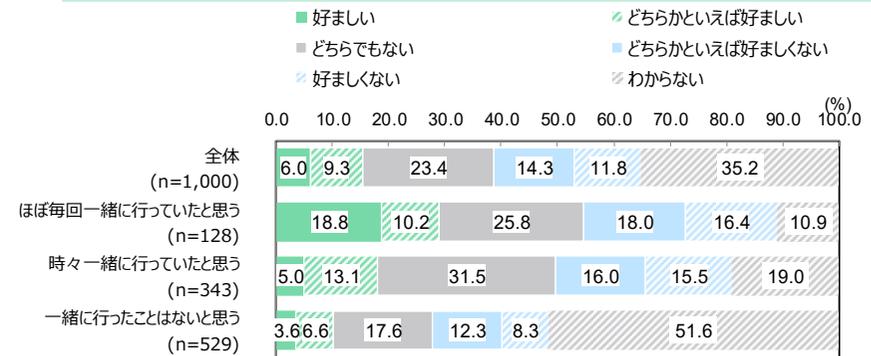
# 政治行動に関する考え（詳細）

親／保護者の投票に同行した頻度（自身の認識に基づく）別にみると、一緒に行っていた頻度が高いと認識している人ほど、自分の周りの人がとる様々な政治行動に対して「好ましい」と回答している。

## 政治的活動のための寄付や募金活動



## 政治的な理由により、特定の国の商品を購入しないようにすること



# 第70回18歳意識調査「政治・選挙」 示唆

## ！ 「体験」が関心 喚起のきっかけに

- 回答者の50%弱は、自分が子どもの頃に、親／保護者の投票について行っていたことがあると回答しており、その経験は政治・選挙に対する意識や態度に大きく影響していることがわかる。例えば、親／保護者と一緒に投票に行っていた頻度が高いと認識している人ほど、今夏の参議院議員選挙に「必ず行くと思う」との回答が多く、また自分の投票が日本の政治に「とても影響を与える」と回答している人が多い。
- 他方、約50%は政治に関する学習体験をしたくないと回答している。
- これらのことから言えることは、若者自身が、自ら関心を持ち→知識を得て→内容を理解し→行動する、ことに期待するよりも、受動的であっても行動（体験）する→疑問や気づきが芽生える→関心を持つ→知識を得る→内容を理解し→主体的に行動することが、重要であることを示している。このことは、日本財団ジャーナル（[若者は政治と裏金のスキャンダルをどう見ているか？](#)）での有識者の指摘とも合致する。

## 💬 学校教育が体験 の鍵に？

- 政治の学習経験では、学校教育の一環として参加したと思われる、「ディベートやロールプレイを取り入れた学習」や「模擬選挙への参加」経験があると回答した人が約20%存在する。
- 1点目の示唆と合わせて考えると、すべての子どもたちが経験する義務教育期間に、例えば学校の社会や総合的な学習（探究）の時間などを通じ、若者自身が行動する機会が提供されることが重要ではないか。教師の解説を聞くだけでなく、若者自身が政治・選挙と自身の生活の繋がりについて調査・議論したり、自らが模擬選挙を運営するといった学びが、その後の若者の政治・選挙への関与姿勢を育てると思われる。またそこでは、政治家や有識者、NPOなど外部との連携の下、学びを支援していくことが重要ではないか。